

10-9 植物

1. 調査

1) 調査内容

造成等の工事、造成地の存在に伴う植物への影響を予測・評価するために、以下の項目について調査した。

(1) 植物相の状況

シダ植物以上の高等植物を対象に植物の生育種、植物相の特徴を調査した。

また、保全すべき種の状況として、埼玉県レッドデータブック及び環境省レッドリスト掲載種、学術上重要な種、地域住民の生活に密接に関わる種、その他の保全が必要な種等及び生育環境を調査した。

この他、外来種として、特定外来生物、要注外来生物、未判定外来生物を調査した。

(2) 植物群落の状況

群落の特徴と分布の状況を調査した。

また、保全すべき群落の状況として、埼玉県レッドデータブック及び植物群落レッドデータブック掲載群落、その他の保全が必要な群落を調査した。

(3) 植生の基盤となる土壌の状況

土壌の生産性等を調査した。

(4) 緑被率又は緑視率等を指標とした緑の量

緑被率等を調査した。

(5) その他の予測・評価に必要な事項

広域的な植物相及び植生の状況、過去の植生の変遷、地域住民やその他の人との関わりの状況を調査した。

2) 調査地域

(1) 既存資料調査

調査地域は、計画地及びその周辺約 2km 程度の範囲を基本とした。

(2) 現地調査

調査地域は、図 10-9-1 に示す計画地及びその周辺 200m の全域とした。



図 10-9-1 調査地域(植物)

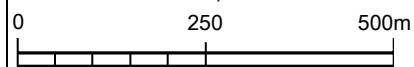
凡 例

⋯⋯⋯ : 計画地 : 調査範囲(計画地周辺 200m)

— — — : 行政界



1 : 10,000



3) 調査方法

(1) 既存資料調査

生育種及び植物相の特徴、植物群落の状況、植生の基盤となる土壌の状況、その他の予測・評価に必要な事項等については、調査地域の植物相に関する既存資料等により整理した。

(2) 現地調査

①植物相の状況

調査地域内を踏査し、出現するシダ植物以上の高等植物を記録する方法とした。なお、現地で確認できない場合は、標本として持ち帰り、室内で同定を行った。

②植物群落の状況

主要な植物群落に調査地点を設定し、ブラウーンブランケの全推定法による群落コードラート調査を行った。また、現地踏査による植生の確認と航空写真判読により植生分布を確認した。

③保全すべき種及び保全すべき群落の状況

保全すべき種の生育状況及び保全すべき群落の成立状況として、分布や個体数等について調査した。

4) 調査期間・頻度

調査期間は、表 10-9-1 に示すとおりとした。

表 10-9-1 植物の調査期間

調査項目	調査季	調査期間
植物相	夏季	平成 25 年 8 月 5 日、8 月 6 日
	秋季	平成 25 年 10 月 15 日、10 月 17 日、10 月 18 日 平成 26 年 11 月 19 日
	早春季	平成 26 年 4 月 1 日、4 月 2 日、4 月 3 日
	春季	平成 26 年 6 月 4 日、6 月 5 日
植物群落	夏季	平成 25 年 8 月 5 日、8 月 6 日
	秋季	平成 26 年 11 月 19 日
	春季	平成 26 年 6 月 4 日
キタミソウ 補足調査	秋季～冬季	平成 26 年 11 月 19 日 平成 27 年 11 月 19 日、11 月 20 日、12 月 4 日

5) 重要種・外来種の選定基準

確認された植物の中で、表 10-9-2 に示す選定基準に該当する種を重要種として、また表 10-9-3 に示す選定基準に該当する種を外来種として選定した。

表 10-9-2 重要種の選定基準

No.	選定基準	ランク、カテゴリー等
I	「文化財保護法」(1950、法律 214)における掲載種	天然記念物 特別天然記念物
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992、法律 75)における掲載種	国内希少野生動植物 国際希少野生動植物
III	「環境省第4次レッドリスト」(環境省、2012)における掲載種	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
IV	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(埼玉県、2012)における掲載種(地帯区分：加須・中川低地)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CE：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
V	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(埼玉県、2012)における希少な植物群落	5：消滅 4：危機的消滅寸前 3：消滅寸前 2：消滅の危険 1：減少 情報不足
VI	「植物群落レッドデータブック」(1966年4月、NACS-J・WWFJapan)における指定群落	カテゴリーⅠ：緊急に対策必要 カテゴリーⅡ：対策必要 カテゴリーⅢ：破壊の危惧 カテゴリーⅣ：要注意

表 10-9-3 外来種の選定基準

No.	選定基準	ランク、カテゴリー等
1	「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)における掲載種	特定：特定外来生物 未判定：未判定外来生物
2	「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(2015 年、環境省・農林水産省)における掲載種	侵入予防種、その他の定着予防外来種、 緊急対策外来種、重点対策外来種、 その他の総合対策外来種、 産業管理外来種

6) 調査結果

(1) 既存資料調査

①植物群落の状況

「改訂・埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」によると、計画地及びその周辺は加須・中川低地(大宮台地・荒川西台地に重ならない、標高 50m 未満の区域)に属している。

また、古くから水田として開墾されてきた歴史から、計画地のある吉川市にはまとまった森林が見られないため、草原性の植物や造成地などに多い雑草、帰化植物が主な植物群落となっている(出典:「市内で見られた動植物」吉川市環境課)。

計画地及びその周辺における現存植生は図 10-9-2 に示すとおりであり、計画地には水田雑草や路傍・空地雑草群落が分布し、その周辺には畑雑草群落、市街地及び緑の多い住宅地などが隣接している。

②植物相の状況

「1998 年版 埼玉県植物誌」(埼玉県教育委員会)によると、埼玉県全域では 2,487 種の維管束植物の生育が確認され、その内訳として、シダ植物 249 種、裸子植物 27 種、被子植物 2,211 種(離弁花類 995 種、合弁花類 611 種、単子葉植物 605 種)となっている。

また、「東日支役 18 第 9 号 武蔵野操(宅)吉川市域環境影響調査報告書」(平成 18 年 12 月 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構)(以下、「文献 1」という。)によると、計画地及びその周辺では 83 科 430 種の植物種(羊歯植物:8 種、裸子植物:1 種、離弁花類:174 種、合弁花類:110 種、単子葉植物:137 種)が確認されている。

③貴重な植物の分布状況

文献 1 により確認された種のうち、注目すべき植物のリストは表 10-9-4 に示すとおりであり、貴重な植物種として 16 種が確認されている。そのうち、計画地内では、ミズワラビ、カワヂシャ、カキツバタ、タコノアシなどの分布が確認されている。

また、計画地周辺における希少な植物群落は表 10-9-5 に示すとおりであり、計画地のある吉川市では、8 つの希少な植物群落(低層湿原、挺水植物群落:5 群落、水辺・短命草本群落:2 群落、江戸川河川敷植物群落)が確認されている。

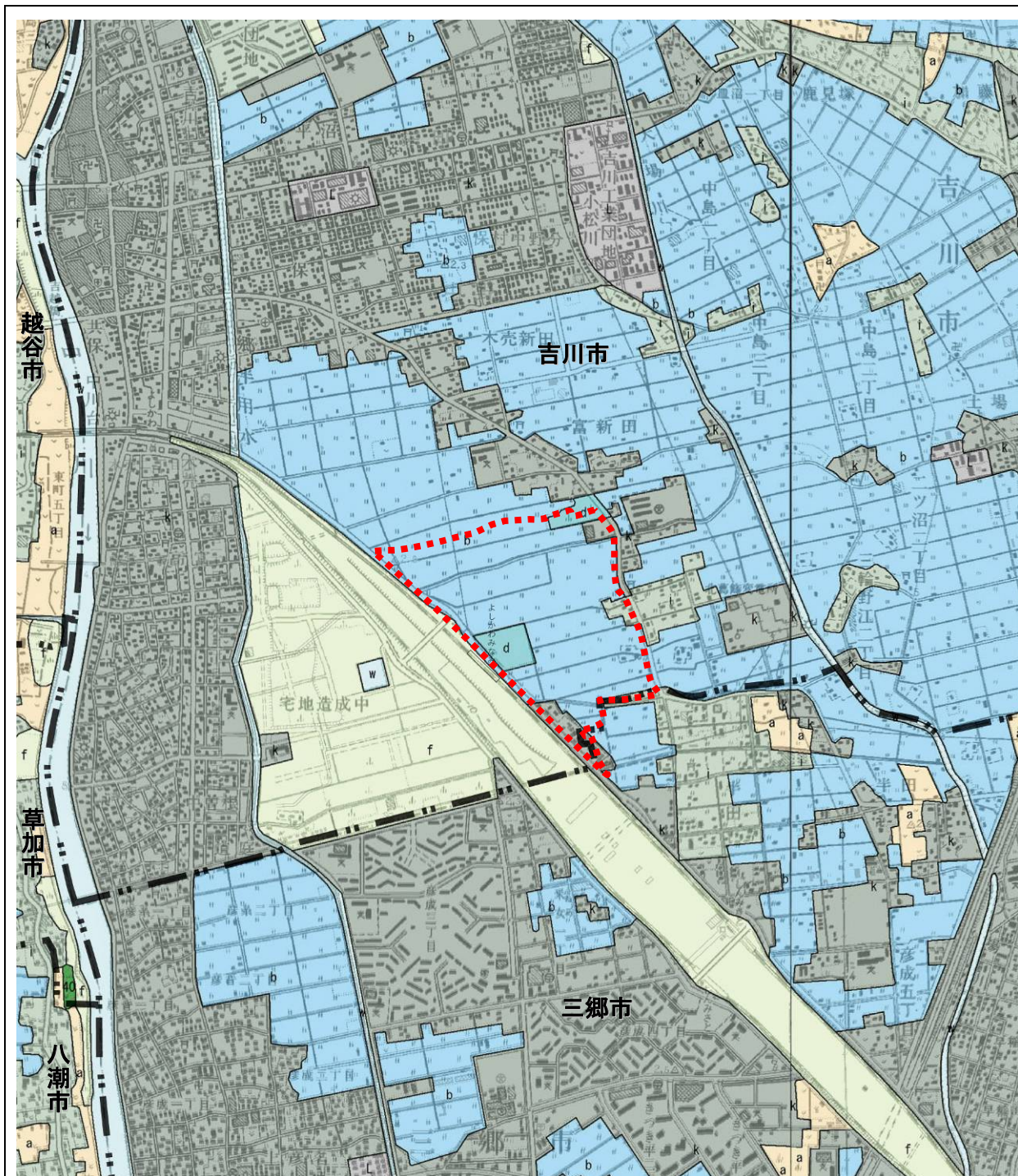


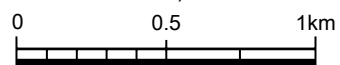
図 10-9-2 植生図

凡 例

- | | | | |
|---|--------------|---|-------------|
|  | : 計画地 |  | : 路傍・空地雑草群落 |
|  | : 行政界 |  | : 市街地 |
|  | : ケヤキ-シラカシ群落 |  | : 緑の多い住宅地 |
|  | : 畑雑草群落 |  | : 工場地帯 |
|  | : 水田雑草群落 |  | : 開放水域 |
|  | : 放棄水田雑草群落 | | |



1 : 25,000



出典 :

「自然環境保全基礎調査植生調査(越谷、流山)」
(環境省)に加筆・修正

表 10-9-4 確認された注目すべき植物のリスト

分類	目名	科名	種名	調査年度	重要種選定基準					
				H14・15	1	2	3	4	5	
維管束	シダ	ホウライシダ	ミズワラビ	○					NT	
	タデ	タデ	シロバナサクラタデ	○					NT	
			コギシギシ	○				VU	VU	
	フウチョウソウ	アブラナ	コイヌガラシ	○				NT	NT	
	ユキノシタ	タコノアシ	タコノアシ	○				NT	VU	
	フトモモ	ミソハギ	ヒメミソハギ	○					NT	
			ミズマツバ	○				NT	VU	
			アカバナ	ウスゲチョウジタデ	○				NT	
	サクラソウ	サクラソウ	ヌマトラノオ	○				NT	NT	
	シソ	シソ	ミゾコウジュ	○					NT	
	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	キクモ	○					NT	VU
			カワヂシャ	○					VU	
			ハマウツボ	ナンバンギセル	○				NT	CR
	キジカクシ	アヤメ	カキツバタ	○					CR	
カヤツリグサ	カヤツリグサ	タタラカンガレイ	○					VU		
ホシクサ	ホシクサ	ヒロハイヌノヒゲ	○					NT		
合計	11目	13科	16種	16	0	0	0	7	16	

注) 選定基準は以下のとおり。

- 「文化財保護法」に基づく特別天然記念物・天然記念物
特：特別天然記念物、天：天然記念物
- 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における国内希少野生動植物種・国際希少野生動植物種
内：国内希少野生動植物種、際：国際希少野生動植物種
- 「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」における県内希少野生動植物種
- 「環境省版第4次レッドリスト」(2012年8月報道発表資料)における掲載種
CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群
- 「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(2012年3月)における掲載種
CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：地域個体群

出典：「東日支役 18 第 9 号 武蔵野操(宅)吉川市域環境影響調査報告書(平成 18 年 12 月)」
独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

表 10-9-5 計画地周辺の希少な植物群落

植生種類・群落名		所在地	特定植物群落* ¹ 、 国RDB* ² 、RDB2005* ³ 等に 基づく分類カテゴリー	
木本	単一群落	シラカシ群落	八潮市	E・H
		スダジイ群落	越谷市	A・C・E・I
草本	低層湿原、 挺水植物群落	コキツネノボタン群落	吉川市	B
		トネハナヤスリ群落	吉川市	B・C
		ノカラマツ群落	吉川市	D
		ハナムグラ群落	吉川市	D
		ヨシ群落	吉川市	H
	水辺・ 短命草本群落	キタミソウ群落	越谷市	C・H・I
		コギシギシ群落	越谷市、吉川市	G
		シロガヤツリ群落	越谷市	G
		ヌカボタデ群落	三郷市	B・G
		ホソバイスタデ群落	三郷市、吉川市	G
	群落複合	葛西用水冬期湿性植物群落	越谷市	D・E・I
古利根堰冬季湿性植物群落		越谷市	D・E・I	
江戸川河川敷植物群落		吉川市、三郷市	G・H	

注) 1 選定方法は、既往文献のうち、埼玉県内の重要な植物群落を網羅的に扱っている以下の3つの文献を主に使用した。

*¹ 「第2回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」(環境庁自然保護局編 1978)

*² 「植物群落レッドデータブック」(日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会編 1996)

*³ 「改訂・埼玉県レッドデータブック 2005 植物編」(埼玉県環境防災部みどり自然課編 2005)

2 分類カテゴリー(A~H)の選定基準は以下のとおり。

A : 原生林もしくはそれに近い自然林

B : 国内若干地域に分布するが、極めて希な植物群落または個体群

C : 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群

D : 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E : 郷土景観を代表する植物群落で、とくにその群落の特徴が典型的なもの

F : 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

G : 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群

H : その他、学術上重要な植物群落または個体群

I : 歴史・宗教・文化や生業と関わり、長きにわたり地域の人々に親しまれてきた植物群落または個体群

出典：「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」埼玉県環境部

(2) 現地調査

①植物相の状況

ア. 確認種

植物調査で確認された種一覧を表 10-9-7 に示す。

確認された植物は76科408種であり、季節別の確認種数は、夏季調査が60科196種〔計画地内：56科155種、計画地外：36科87種〕、秋季調査が48科168種〔計画地内：44科126種、計画地外：32科74種〕、早春季調査が44科136種〔計画地内：31科84種、計画地外：37科88種〕、春季調査が66科276種〔計画地内：52科190種、計画地外：58科207種〕であった。

調査範囲の大部分を占める水田では、ミゾソバ、ノミノフスマ、タネツケバナ、チョウジタデ、コナギ、イボクサ、スズメノテッポウなど、数多くの水田雑草類が確認された。対象範囲内には畑地も点在しておりイヌタデ、ザクロソウ、スベリヒユ、コハコベ、エノキグサ、コニシキソウ、ヤエムグラ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ツユクサ、メヒシバ、エノコログサ、カラスビシャクなどの畑地雑草が確認された。

水田の一部は放棄され、ヨシなど草丈の高い草本が優占したヨシ群落が成立している。

水路には護岸が施されていない部分も多く、オギ、ヨシ、マコモ、ヒメガマ、コガマ、サンカクイ、ウキヤガラなどの抽水性の湿生草本が群生しており、ところどころにアカメヤナギ、タチヤナギ、ハンノキなど湿生の木本類も生育していた。

住宅地周辺や、耕作地周辺の法面、未舗装の路上などでは、スギナ、メドハギ、オオバコ、カントウヨメナ、カモジグサ、コブナグサ、ギョウギシバ、オヒシバ、カゼクサ、コスズメガヤ、チガヤ、チカラシバなどの路傍雑草や路上雑草が確認された。

表 10-9-6 植物確認種数

植物分類		科数	種数		
羊歯植物		6	9		
種子植物	裸子植物	1	1		
	被子植物	単子葉植物	16	126	
		双子葉植物	離弁花類	40	177
			合弁花類	13	95
合計		76	408		

表 10-9-7(1) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
1	トクサ	スキナ	<i>Equisetum arvense</i>	○	○	○	○
2		トクサ	<i>Equisetum hymale</i>		○		
3		イストクサ	<i>Equisetum ramosissimum</i>			○	○
4	ミスワラビ	ミスワラビ	<i>Ceratopteris thalictroides</i>	○	○		
5	イノモトソウ	イノモトソウ	<i>Pteris multifida</i>	○			
6	オシタ	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	○			
7	ヒメシタ	ミドリヒメワラビ	<i>Thelypteris viridifrons</i>				○
8	メシタ	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>				○
9		コウヤワラビ	<i>Onoclea sensibilis</i> var. <i>interrupta</i>				○
10	マキ	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>		○		
11	ヤナギ	アカメヤナギ	<i>Salix chaenomeloides</i>	○	○	○	○
12		カワヤナギ	<i>Salix gilgiana</i>		○	○	○
13		ネコヤナギ	<i>Salix gracilistyla</i>			○	
14		イヌコリヤナギ	<i>Salix integra</i>	○			
15		タチヤナギ	<i>Salix subfragilis</i>	○		○	○
16	カハノキ	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>	○	○	○	○
17	ブナ	スタジイ	<i>Castanopsis cuspidata</i> var. <i>sieboldii</i>			○	
18		クヌギ	<i>Quercus acutissima</i>	○		○	○
19		シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	○			
20		コナラ	<i>Quercus serrata</i>			○	
21	ニレ	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	○	○	○	○
22		エノキ	<i>Celtis sinensis</i> var. <i>japonica</i>	○	○	○	○
23		アキニレ	<i>Ulmus parvifolia</i>		○		
24		ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	○			
25	クワ	クワクサ	<i>Fatoua villosa</i>				○
26		イチジク	<i>Ficus carica</i>	○			
27		カナムグサ	<i>Humulus japonicus</i>	○	○	○	○
28		マクワ	<i>Morus alba</i>				○
29		ヤマクワ	<i>Morus australis</i>	○	○		○
30	イラクサ	アオミス	<i>Pilea pumila</i>	○	○		○
31	タデ	サクラタデ	<i>Persicaria conspicua</i>		○		
32		ヤナギタデ	<i>Persicaria hydropiper</i>		○		
33		シロバナサクラタデ	<i>Persicaria japonica</i>		○		
34		オオイヌタデ	<i>Persicaria lapathifolia</i>	○	○		○
35		イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	○	○		○
36		サテクサ	<i>Persicaria maackiana</i>	○	○		○
37		ヤノネグサ	<i>Persicaria nipponensis</i>	○	○		○
38		イシミカワ	<i>Persicaria perfoliata</i>	○	○		○
39		アキノウナギツカミ	<i>Persicaria sieboldii</i>	○	○		○
40		ミツソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>	○	○		○
41		ミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i>				○
42		オオミチヤナギ	<i>Polygonum aviculare</i> var. <i>vegetum</i>	○			
43		イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>	○			○
44		スイハ	<i>Rumex acetosa</i>	○		○	
45		アレチキシキシ	<i>Rumex conglomeratus</i>	○			○
46		ナカハキシキシ	<i>Rumex crispus</i>	○		○	○

表 10-9-7(2) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
47	タデ	キシキシ	<i>Rumex japonicus</i>		○	○	○
48		コキシキシ	<i>Rumex nipponicus</i>				○
49		エソノキシキシ	<i>Rumex obtusifolius</i>			○	
50	サクロソウ	サクロソウ	<i>Mollugo pentaphylla</i>				○
51	スベリヒユ	スベリヒユ	<i>Portulaca oleracea</i>	○	○		○
52	ナテシユ	ノミノツツリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>			○	○
53		オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>			○	○
54		ミミナグサ	<i>Cerastium holosteoides</i> var. <i>angustifolium</i>			○	
55		ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>			○	○
56		ムシトリナテシユ	<i>Silene armeria</i>				○
57		ノミノフスマ	<i>Stellaria alsine</i> var. <i>undulata</i>			○	○
58		ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>	○	○	○	○
59		コハコベ	<i>Stellaria media</i>			○	○
60		ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>				○
61	アカサ	シロサ	<i>Chenopodium album</i>	○	○		○
62		ケアリタソウ	<i>Chenopodium ambrosioides</i>				○
63		コアカサ	<i>Chenopodium ficifolium</i>				○
64		コウシュウアリタソウ	<i>Chenopodium pumilio</i>		○		○
65	ヒユ	ヒカゲイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>				○
66		ヒナタイノコスチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>tomentosa</i>	○			○
67		ナカエツルノケイトウ	<i>Alternanthera philoxeroides</i>	○	○		
68		ツルノケイトウ	<i>Alternanthera sessilis</i>		○		
69		イヌビユ	<i>Amaranthus lividus</i>				○
70		ホソアオケイトウ	<i>Amaranthus patulus</i>		○		
71		ホナカイヌビユ	<i>Amaranthus viridis</i>	○			○
72		ノケイトウ	<i>Celosia argentea</i>		○		
73	クスノキ	シロタモ	<i>Neolitsea sericea</i>	○	○	○	○
74	キンボウケ	ケキツネノホタン	<i>Ranunculus cantoniensis</i>	○	○		○
75		タカランシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>			○	○
76		キツネノホタン	<i>Ranunculus silerifolius</i>				○
77	メギ	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>	○			
78	アケビ	アケビ	<i>Akebia quinata</i>	○		○	
79	ツツラフシ	アオツツラフシ	<i>Cocculus orbiculatus</i>				○
80	トクダミ	トクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>	○		○	○
81	ケン	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>			○	
82		ナカミヒナケシ	<i>Papaver dubium</i>			○	○
83	アブラナ	カラシナ	<i>Brassica juncea</i>			○	
84		セイヨウアブラナ	<i>Brassica napus</i>			○	○
85		ナスナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>			○	○
86		タネツケバナ	<i>Cardamine flexuosa</i>		○	○	○
87		ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>			○	
88		カラクサナスナ	<i>Coronopus didymus</i>		○	○	○
89		マメクシハナスナ	<i>Lepidium virginicum</i>	○			○
90		コイスカランシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>			○	
91		イヌカランシ	<i>Rorippa indica</i>	○		○	○
92		スカシタコホウ	<i>Rorippa islandica</i>	○	○	○	○

表 10-9-7(3) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
93	ヘンケイソウ	コモチマンネンクサ	<i>Sedum bulbiferum</i>			○	○
94		ツルマンネンクサ	<i>Sedum sarmentosum</i>	○		○	○
95	ユキノシタ	ウツギ	<i>Deutzia crenata</i>				○
96		タコノアシ	<i>Penthorum chinense</i>		○		○
97	ハ女郎	ヘビイチゴ	<i>Duchesnea chrysantha</i>		○	○	○
98		ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>				○
99		ヒワリ	<i>Eriobotrya japonica</i>			○	
100		オヘビイチゴ	<i>Potentilla sundaica</i> var. <i>robusta</i>	○	○	○	○
101		オキシムシロ	<i>Potentilla supina</i>				○
102		ヤマサクラ	<i>Prunus jamasakura</i>				○
103		サトサクラ	<i>Prunus lannesiana</i>			○	
104		オオシマサクラ	<i>Prunus lannesiana</i> var. <i>speciosa</i>			○	
105		シャリンバイ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i>		○	○	
106		ノイハ女郎	<i>Rosa multiflora</i>	○	○	○	○
107		セイヨウヤブイチゴ	<i>Rubus fruticosus</i>				○
108		ナワシロイチゴ	<i>Rubus parvifolius</i>			○	○
109		ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>				○
110	マメ	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>	○	○		○
111		ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	○			○
112		イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>				○
113		ヤブマメ	<i>Amphicarpaea bracteata</i> ssp. <i>edgeworthii</i> var. <i>japonica</i>	○	○		○
114		ツルマメ	<i>Glycine max</i> ssp. <i>soja</i>	○	○		○
115		マルハヤハスソウ	<i>Kummerowia stipulacea</i>				○
116		ヤハスソウ	<i>Kummerowia striata</i>	○			○
117		メトハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>	○	○	○	○
118		コメツブウマコヤシ	<i>Medicago lupulina</i>				○
119		シナガワハギ	<i>Melilotus officinalis</i> ssp. <i>alba</i> f. <i>suaveolens</i>	○	○		○
120		クス	<i>Pueraria lobata</i>	○		○	○
121		クスタマツメクサ	<i>Trifolium campestre</i>				○
122		コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>	○		○	○
123		ムラサキツメクサ	<i>Trifolium pratense</i>			○	○
124		シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>	○	○	○	○
125		ヤハスエントウ	<i>Vicia angustifolia</i>			○	○
126		スズメノエントウ	<i>Vicia hirsuta</i>			○	○
127		カスマクサ	<i>Vicia tetrasperma</i>			○	
128		ヤブツルアスキ	<i>Vigna angularis</i> var. <i>nipponensis</i>	○	○		
129		フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	○			○
130	カタハミ	イモカタハミ	<i>Oxalis articulata</i>			○	○
131		カタハミ	<i>Oxalis corniculata</i>	○		○	○
132		アカカタハミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>rubrifolia</i>		○	○	○
133		ウスアカカタハミ	<i>Oxalis corniculata</i> f. <i>tropaeoloides</i>	○	○		○
134		ムラサキカタハミ	<i>Oxalis corymbosa</i>	○			○
135		オッタチカタハミ	<i>Oxalis stricta</i>				○
136	フウロソウ	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>			○	○

表 10-9-7(4) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
137	トウタ ^イ ク ^サ	エノク ^サ	<i>Acalypha australis</i>	○	○		○
138		オオニシキソウ	<i>Euphorbia maculata</i>		○		○
139		コニシキソウ	<i>Euphorbia supina</i>	○			○
140		アカメカ ^シ リ	<i>Mallotus japonicus</i>	○	○	○	○
141	ウルシ	ヌルテ	<i>Rhus javanica</i> var. <i>roxburgii</i>	○			○
142		ハセ ^ノ キ	<i>Rhus succedanea</i>				○
143	ムクロシ	フウセンカス ^ラ	<i>Cardiospermum halicacabum</i>	○			
144	ニシキキ	ツルウメモト ^キ	<i>Celastrus orbiculatus</i>				○
145		マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>		○		
146	ブ ^ト ウ	ノブ ^ト ウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i>	○	○		○
147		キレハノブ ^ト ウ	<i>Ampelopsis glandulosa</i> var. <i>heterophylla</i> f. <i>citrulloides</i>	○			
148		ヤブ ^カ ラシ	<i>Cayratia japonica</i>	○		○	○
149		ツタ	<i>Parthenocissus tricuspidata</i>		○	○	○
150		エビ ^ツ ル	<i>Vitis ficifolia</i> var. <i>lobata</i>	○			○
151	アオイ	タチアオイ	<i>Althaea rosea</i>				○
152		フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	○			
153		ナカ ^エ アオイ	<i>Malva pusilla</i>				○
154		セ ^ニ アオイ	<i>Malva sylvestris</i> var. <i>mauritiana</i>	○			
155	スミレ	サンシキスミレ	<i>Viola</i> × <i>wittrockiana</i>			○	
156		タチツボ ^ス ミレ	<i>Viola grypoceras</i>	○			
157		コスミレ	<i>Viola japonica</i>	○			
158		スミレ	<i>Viola mandshurica</i>	○		○	
159		ヒメスミレ	<i>Viola minor</i>			○	
160		ツボ ^ス ミレ	<i>Viola verecunda</i>	○		○	
161		アキ ^ス ミレ	<i>Viola verecunda</i> var. <i>semilunaris</i>				○
162		ノシ ^ス ミレ	<i>Viola yedoensis</i>			○	
163	ミツ ^ハ コハ ^ベ	ミツ ^ハ コハ ^ベ	<i>Elatine triandra</i> var. <i>pedicellata</i>	○			○
164	ウリ	アマチヤツ ^ル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>		○		
165		スス ^メ ウリ	<i>Melothria japonica</i>		○		
166		カラスウリ	<i>Trichosanthes cucumeroides</i>	○	○		○
167	ミソハキ	ホソハ ^ヒ メミソハキ	<i>Ammannia coccinea</i>	○	○		
168		ヒメミソハキ	<i>Ammannia multiflora</i>		○		
169		エツ ^ミ ソハキ	<i>Lythrum salicaria</i>				○
170		キカシク ^サ	<i>Rotala indica</i> var. <i>uliginosa</i>		○		
171		ミス ^マ ツハ	<i>Rotala pusilla</i>	○	○		
172	アカハ ^ナ	アカハ ^ナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>		○		
173		ヒレタコ ^ホ ウ	<i>Ludwigia decurrens</i>	○	○		
174		チョウジ ^タ テ	<i>Ludwigia epilobioides</i>		○		○
175		メマツヨイク ^サ	<i>Oenothera biennis</i>	○		○	○
176		コマツヨイク ^サ	<i>Oenothera laciniata</i>	○	○		○
177		ユウケ ^シ ョウ	<i>Oenothera rosea</i>	○	○		○
178		ヒルサ ^キ ツキミソウ	<i>Oenothera speciosa</i>				○
179		ミス ^キ	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	○		
180	ウコキ	ヤツテ	<i>Fatsia japonica</i>				○
181		カナリーキツ ^タ	<i>Hedera canariensis</i>			○	
182		キツ ^タ	<i>Hedera rhombea</i>		○		○

表 10-9-7(5) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
183	セリ	ツボクサ	<i>Centella asiatica</i>				○
184		ノチトメ	<i>Hydrocotyle maritima</i>	○		○	○
185		オオチトメ	<i>Hydrocotyle ramiflora</i>		○		○
186		セリ	<i>Oenanthe javanica</i>	○	○	○	○
187		オヤブシラミ	<i>Torilis scabra</i>			○	○
188	モクセイ	トネリコ	<i>Fraxinus japonica</i>		○		
189		ネスミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>			○	
190		トウネスミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	○	○	○	○
191	カガイモ	カガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>	○			○
192	アカネ	ヤエムクワ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>		○	○	○
193		ハクソカスラ	<i>Paederia scandens</i>	○	○		○
194	ヒルガオ	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>	○	○		○
195		ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>	○		○	○
196		アサガオ	<i>Ipomoea nil</i>		○		
197		マルハアサガオ	<i>Pharbitis purpurea</i>	○			
198	ムラサキ	ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>	○	○		○
199		ヒレハリソウ	<i>Symphytum officinale</i>	○	○	○	○
200		キュウリクサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>			○	○
201	クマツヅラ	クサキ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>		○		
202		ヒメイワタレソウ	<i>Lippia canescens</i>				○
203		ヤナキハナカサ	<i>Verbena bonariensis</i>				○
204		アレチハナカサ	<i>Verbena brasiliensis</i>		○		○
205	シソ	カキトオシ	<i>Glechoma hederacea</i> var. <i>grandis</i>			○	
206		ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>			○	○
207		ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>		○	○	
208		マルハハッカ	<i>Mentha suaveolens</i>	○	○		○
209		ヒメシソ	<i>Mosla dianthera</i>	○	○		○
210		イヌコウジュ	<i>Mosla punctulata</i>		○		
211		シソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>crispa</i>		○		
212		ハナトラノオ	<i>Physostegia virginiana</i>		○		
213		ミゾコウジュ	<i>Salvia plebeia</i>				○
214		イヌコマ	<i>Stachys riederi</i> var. <i>intermedia</i>	○			
215	ナス	クコ	<i>Lycium chinense</i>			○	
216		アメリカイヌホオズキ	<i>Solanum americanum</i>	○	○		
217		ワルナスビ	<i>Solanum carolinense</i>	○			○
218		オオイヌホオズキ	<i>Solanum nigrescens</i>		○		○
219	コマノハクサ	キクモ	<i>Limnophila sessiliflora</i>	○	○		○
220		マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>				○
221		タケトアゼナ	<i>Lindernia dubia</i>	○			
222		アメリカアゼナ	<i>Lindernia dubia</i> var. <i>major</i>	○	○		○
223		アゼトウカラシ	<i>Lindernia micrantha</i>		○		○
224		アゼナ	<i>Lindernia procumbens</i>		○		
225		ムラサキサキコケ	<i>Mazus miquelii</i>			○	○
226		サキコケ	<i>Mazus miquelii</i> f. <i>albiflorus</i>			○	
227		トキワハゼ	<i>Mazus pumilus</i>	○	○	○	○
228		タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>			○	○
229		ムシクサ	<i>Veronica peregrina</i>			○	

表 10-9-7(6) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
230	ゴマノハグサ	オオイヌノフグ	<i>Veronica persica</i>	○		○	○
231		カラチシヤ	<i>Veronica undulata</i>			○	○
232		キタミソウ	<i>Limosella aquatica</i>		○		
233	オオハコ	オオハコ	<i>Plantago asiatica</i>	○	○	○	○
234		ハラオオハコ	<i>Plantago lanceolata</i>	○		○	○
235	スイカスラ	スイカスラ	<i>Lonicera japonica</i>	○	○	○	○
236	キキョウ	ミゾカクシ	<i>Lobelia chinensis</i>	○	○		○
237		キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>				○
238	キク	フタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia</i> var. <i>elatior</i>	○			○
239		クワモトギ	<i>Ambrosia trifida</i>		○		○
240		ヨモギ	<i>Artemisia princeps</i>	○	○	○	○
241		ノコンギク	<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>ovatus</i>	○			
242		ヒロハホウキギク	<i>Aster subulatus</i>		○		○
243		ホウキギク	<i>Aster subulatus</i> var. <i>obtusifolius</i>	○			
244		アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>	○	○		○
245		コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>	○	○		○
246		タウコギ	<i>Bidens tripartita</i>	○	○		○
247		ヤクルマギク	<i>Centaurea cyanus</i>				○
248		トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>	○	○		○
249		アメリカオニアサミ	<i>Cirsium vulgare</i>	○	○	○	○
250		アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>				○
251		オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	○			○
252		アメリカカタカサフロウ	<i>Eclipta alba</i>	○	○		○
253		ヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron canadensis</i>	○	○		
254		ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	○	○	○	○
255		ハキタメギク	<i>Galinsoga ciliata</i>	○	○		○
256		ハハコグサ	<i>Gnaphalium affine</i>			○	○
257		タチチコグサ	<i>Gnaphalium calviceps</i>				○
258		チコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>	○			
259		セイタカハハコグサ	<i>Gnaphalium luteo-album</i>		○		○
260		チチコグサモトギ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>				○
261		ウラシロチチコグサ	<i>Gnaphalium spicatum</i>				○
262		イヌキクイモ	<i>Helianthus strumosus</i>	○	○		
263		キツネアサミ	<i>Hemistepta lyrata</i>			○	○
264		フタナ	<i>Hypochoeris radicata</i>	○			
265		オオジシバリ	<i>Ixeris debilis</i>	○	○	○	○
266		ノニカ	<i>Ixeris polycephala</i>			○	○
267		イワニカ	<i>Ixeris stolonifera</i>				○
268		カントウヨメナ	<i>Kalimeris pseudo-yomena</i>	○	○		
269		アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i>	○	○		○
270		ホソバアキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i> var. <i>indica</i> f. <i>indivisa</i>	○			○
271	コオニタビラコ	<i>Lapsana apogonoides</i>			○	○	
272	フキ	<i>Petasites japonicus</i>			○	○	
273	ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>	○		○	○	
274	セイタカアリタチソウ	<i>Solidago altissima</i>	○	○	○	○	
275	オノゲシ	<i>Sonchus asper</i>	○	○	○	○	
276	ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	○		○	○	

表 10-9-7(7) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
277	キク	ヒメシ`ョオン	<i>Stenactis annuus</i>	○		○	○
278		セイヨウタンホ`ホ`	<i>Taraxacum officinale</i>	○	○	○	○
279		カントウタンホ`ホ`	<i>Taraxacum platycarpum</i>				○
280		イカ`オナモミ	<i>Xanthium italicum</i>				○
281		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>		○	○	
282		オニタビ`ラコ	<i>Youngia japonica</i>	○			○
283	オモダ`カ	オモダ`カ	<i>Sagittaria trifolia</i>	○			○
284	トチカカ`ミ	コカナダ`モ	<i>Eloдея nuttallii</i>		○	○	
285	ユリ	ノビ`ル	<i>Allium grayi</i>			○	○
286		ニラ	<i>Allium tuberosum</i>	○	○		○
287		ハナニラ	<i>Brodiaea uniflora</i>			○	
288		ヒメヤブ`ラン	<i>Liriope minor</i>			○	
289		ルリムスカリ	<i>Muscari botryoides</i>			○	
290		シ`ャノヒゲ`	<i>Ophiopogon japonicus</i>	○	○	○	
291		ナカ`ハ`シ`ャノヒゲ`	<i>Ophiopogon ohwii</i>		○		
292		サルトリイハ`ラ	<i>Smilax china</i>				○
293	ヒカ`ンハ`ナ	ヒカ`ンハ`ナ	<i>Lycoris radiata</i>			○	
294		スイセン	<i>Narcissus tazetta var. chinensis</i>			○	
295	ヤマノイモ	ナカ`イモ	<i>Dioscorea batatas</i>				○
296	ミス`アオイ	コナキ`	<i>Monochoria vaginalis var. Plantaginea</i>	○	○		○
297	アヤメ	キショウフ`	<i>Iris pseudacorus</i>				○
298		オオニワセ`キショウ	<i>Sisyrinchium sp.</i>				○
299	イク`サ	イク`サ	<i>Juncus effusus var. decipiens</i>				○
300		コウカ`イセ`キショウ	<i>Juncus leschenaultii</i>	○	○		○
301		ホソイ	<i>Juncus setchuensis var. effusoides</i>				○
302		ココ`メイ	<i>Juncus sp.</i>		○	○	○
303	ツユクサ	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>	○	○		○
304		イホ`クサ	<i>Murdannia keissak</i>	○	○	○	
305	イネ	アオカモシ`ク`サ	<i>Agropyron racemiferum</i>				○
306		カモシ`ク`サ	<i>Agropyron tsukushiense var. transiens</i>	○			○
307		コヌカク`サ	<i>Agrostis alba</i>				○
308		ヌカホ`	<i>Agrostis clavata ssp. matsumurae</i>				○
309		スス`メノテッホ`ウ	<i>Alopecurus aequalis var. amurensis</i>			○	○
310		メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>				○
311		ハルカ`ヤ	<i>Anthoxanthum odoratum</i>				○
312		コフ`ナク`サ	<i>Arthraxon hispidus</i>	○	○		○
313		カス`ノコク`サ	<i>Beckmannia syzigachne</i>	○			○
314		コハ`ンソウ	<i>Briza maxima</i>				○
315		イヌムキ`	<i>Bromus catharticus</i>	○		○	○
316		スス`メノチヤヒキ	<i>Bromus japonicus</i>				○
317		ヤマアヲ	<i>Calamagrostis epigeios</i>	○			
318		シ`ユス`タ`マ	<i>Coix lacryma-jobi</i>	○			
319		キ`ョウキ`シハ`	<i>Cynodon dactylon</i>	○	○		○
320		カモカ`ヤ	<i>Dactylis glomerata</i>				○
321		メヒシハ`	<i>Digitaria ciliaris</i>	○	○		

表 10-9-7(8) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
322	イネ	コメシハ	<i>Digitaria radiosa</i>	○			
323		イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i>	○	○		○
324		ケイヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli</i> var. <i>caudata</i>	○			
325		オヒシハ	<i>Eleusine indica</i>	○	○		
326		シナダレスメカヤ	<i>Eragrostis curvula</i>	○	○		○
327		カセクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>		○		
328		コスメカヤ	<i>Eragrostis poaeoides</i>	○			○
329		オウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>	○		○	○
330		オオウシノケグサ	<i>Festuca rubra</i>			○	
331		トシヨウツナギ	<i>Glyceria ischyronura</i>				○
332		ウシノシツペイ	<i>Hemarthria sibirica</i>	○			
333		チカヤ	<i>Imperata cylindrica</i> var. <i>koenigii</i>	○			○
334		チコスサ	<i>Isachne globosa</i>	○	○		○
335		アシカキ	<i>Leersia japonica</i>	○	○		○
336		アセカヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>		○		
337		ネスミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>	○		○	○
338		ヒメアシボソ	<i>Microstegium vimineum</i>		○		
339		オキ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>	○	○		○
340		ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>		○	○	○
341		スカキビ	<i>Panicum bisulcatum</i>		○	○	
342		オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		○		
343		シマスメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	○	○		
344		チクコスメノヒエ	<i>Paspalum distichum</i> var. <i>indutum</i>	○			
345		チカラシハ	<i>Pennisetum alopecuroides</i> f. <i>purpurascens</i>		○		
346		クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>	○		○	○
347		ヨシ	<i>Phragmites australis</i>	○	○	○	○
348		マダケ	<i>Phyllostachys bambusoides</i>			○	○
349		アスマネササ	<i>Pleioblastus chino</i>			○	○
350		マダケ	<i>Pleioblastus simonii</i>	○	○		
351		ミゾイチコツナギ	<i>Poa acroleuca</i>				○
352		スメノカタビラ	<i>Poa annua</i>	○		○	○
353		コイチコツナギ	<i>Poa compressa</i>				○
354		ナカハグサ	<i>Poa pratensis</i>				○
355		ミスシナカハグサ	<i>Poa subcaerulea</i>				○
356		オオスメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>				○
357		ヒエガエリ	<i>Polypogon fugax</i>				○
358	アキノエノコログサ	<i>Setaria faberi</i>	○	○			
359	キンエノコロ	<i>Setaria pumilla</i>	○				
360	エノコログサ	<i>Setaria viridis</i>	○	○		○	
361	ムラサキエノコロ	<i>Setaria viridis</i> f. <i>misera</i>				○	
362	オオエノコロ	<i>Setaria xypnocoma</i>	○			○	
363	セイハンモロコシ	<i>Sorghum halepense</i>	○	○			
364	ヒメモロコシ	<i>Sorghum halepense</i> f. <i>muticum</i>	○				
365	カニツリグサ	<i>Trisetum bifidum</i>				○	
366	ナキナカガヤ	<i>Vulpia myuros</i>				○	
367	マコモ	<i>Zizania latifolia</i>	○	○		○	
368	シハ	<i>Zoysia japonica</i>	○			○	

表 10-9-7(9) 確認種一覧(植物)

No.	科名	和名	学名	夏季	秋季	早春季	春季
369	ヤシ	シュロ	<i>Trachycarpus fortunei</i>	○		○	○
370		トウシ ^レ ユロ	<i>Trachycarpus wagnerianus</i>			○	
371	サトイモ	ショウブ ^レ	<i>Acorus calamus</i>	○		○	○
372		カラスビ ^レ シヤク	<i>Pinellia ternata</i>				○
373	ウキクサ	アオウキクサ	<i>Lemna aoukikusa</i>	○	○		○
374		ウキクサ	<i>Spirodela polyrhiza</i>	○			
375	カ ^レ マ	ヒメカ ^レ マ	<i>Typha angustifolia</i>	○		○	○
376		コカ ^レ マ	<i>Typha orientalis</i>	○			
377	カヤツリク ^レ サ	アセ ^レ ナルコ	<i>Carex dimorpholepis</i>				○
378		カサスケ ^レ	<i>Carex dispalata</i>				○
379		ヒコ ^レ クサ	<i>Carex japonica</i>				○
380		ヤカ ^レ ミスゲ ^レ	<i>Carex maackii</i>				○
381		ミコシカ ^レ ヤ	<i>Carex neurocarpa</i>				○
382		アセ ^レ スゲ ^レ	<i>Carex thunbergii</i>				○
383		ヒメクゲ ^レ	<i>Cyperus brevifolius var. leiolepis</i>		○		
384		ユメノシマカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus congestus</i>	○			
385		タマカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus difformis</i>	○	○		
386		ホロミキンカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus engelmannii</i>		○		
387		メリケンカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>				○
388		ヒナカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus flaccidus</i>		○		
389		ヌマカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus glomeratus</i>		○		
390		ココ ^レ メカ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus iria</i>		○		
391		カヤツリク ^レ サ	<i>Cyperus microiria</i>	○			
392		ハマスゲ ^レ	<i>Cyperus rotundus</i>				○
393		カワラスカ ^レ ナ	<i>Cyperus sanguinolentus f. nipponicus</i>	○	○		
394		ミス ^レ カ ^レ ヤツリ	<i>Cyperus serotinus</i>		○		
395		マツハ ^レ イ	<i>Eleocharis acicularis var. longiseta</i>				○
396		クロク ^レ ワイ	<i>Eleocharis kuroguwai</i>				○
397		クロテンツキ	<i>Fimbristylis diphyloides</i>		○		
398		ヒテ ^レ リコ	<i>Fimbristylis miliacea</i>	○	○		
399		コサンカクイ	<i>Scirpus ×carinatus</i>		○		○
400		ホタルイ	<i>Scirpus juncoides</i>	○	○		○
401		イヌホタルイ	<i>Scirpus juncoides var. ohwianus</i>	○	○		
402		マツカサスキ	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	○	○		
403		タタラカンカ ^レ レイ	<i>Scirpus mucronatus f. tataranus</i>	○			
404		コウキヤカ ^レ ラ	<i>Scirpus planiculmis</i>				○
405		フトイ	<i>Scirpus tabernaemontani</i>				○
406		サンカクイ	<i>Scirpus triqueter</i>	○	○		○
407		ウキヤカ ^レ ラ	<i>Scirpus yagara</i>	○	○		○
408	ラン	ネシ ^レ ハ ^レ ナ	<i>Spiranthes sinensis var. amoena</i>				○
	76 科		408種	60科 196種	48科 169種	44科 136種	66科 276種

イ. 重要種

確認種の中で、重要種は、キタミソウ(環境省 RL : VU、県 RDB : EN)、コイヌガラシ(環境省 RL : NT、県 RDB : NT)、タコノアシ(環境省 RL : NT、県 RDB : VU)、エゾミソハギ(県 RDB : EN)、ミゾコウジュ(環境省 RL : NT、県 RDB : NT)等 16 種となっている。うち、エゾミソハギ、ミゾコウジュを除く 14 種が計画区域内で確認された。確認した重要種は表 10-9-8 に示すとおりである。

表 10-9-8 重要種一覧(植物)

科名	種名	調査時期				重要種の選定基準※			
		夏	秋	早春	春	I	II	III	IV
ミズワラビ	ミズワラビ	○	○						NT
タデ	シロバナサクラタデ		○						NT
	コギシギシ				○			VU	VU
アブラナ	コイヌガラシ			○				NT	NT
ユキノシタ	タコノアシ		○		○			NT	VU
ミソハギ	ヒメミソハギ		○						NT
	エゾミソハギ				○				EN
	ミズマツバ	○	○					VU	VU
シソ	ミゾコウジュ				○			NT	NT
ゴマノハグサ	キクモ	○	○		○				NT
	カワヂシャ			○	○			NT	VU
	キタミソウ		○					VU	EN
キク	タウコギ	○	○		○				NT
	ノニガナ			○	○				NT
カヤツリグサ	マツカサススキ	○	○						NT
	タタラカンガレイ	○							CR

※重要種の選定基準

- I. 天然記念物：文化財保護法(1950年、法律第214号)
【略号】国：国指定の天然記念物 県：埼玉県指定の天然記念物
- II. 種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(1992年、法律第75号)
【略号】国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種
緊急：緊急指定種 特定：特定国内希少野生動植物種
- III. 環境省 RL：「第4次レッドリストの公表について」(2012年8月、環境省)
【略号】EX：絶滅 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種、EW：野生絶滅 飼育・栽培下でのみ存続している種、
CR：絶滅危惧ⅠA類 ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種、
EN：絶滅危惧ⅠB類 ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種、
VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種、
NT：準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種、
DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群地域に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
- IV. 埼玉県 RDB：埼玉県レッドデータブック 2011植物編(2012年3月、埼玉県)
【略号】EX：絶滅 本県ではすでに絶滅したと考えられる種、EW：野生絶滅 本県では飼育・栽培下でのみ存続している種
CE：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種
CR：絶滅危惧ⅠA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が最も高いもの
EN：絶滅危惧ⅠB類 ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの、VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種
NT：準絶滅危惧 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種、LP：絶滅のおそれのある地域個体群 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い種

表 10-9-9 (1) 重要種確認状況(植物)

種目名	指定区分	確認状況等	生態的特長
ミズワラビ	埼玉県 RDB (NT)	【夏季】 水田脇や休耕水田、畔など 10 か所で確認された。明るく湿った立地や水中に生育。 【秋季】 稲刈り後の水田内や休耕水田など 19 か所で確認された。明るく過湿な立地に生育。	水田や沼地に生育するミズワラビ科の一年草。食用に供されることがある。
シロバナサクラタデ	埼玉県 RDB (NT)	【秋季】 水路内やヨシ草地脇など 4 か所で確認された。明るく湿った立地や水中に生育。	湿地に生え、地下茎のあるタデ科の多年草。茎は直立し、高さ 50～100cm になる。花期は 8～11 月。
コギシギシ	環境省 RL (VU) 埼玉県 RDB (VU)	【春季】 水路沿いや畑など 7 か所で確認された。主に明るく乾燥した立地に生育。	低地の河川敷や荒地に生えるタデ科の草本。花期は 5～8 月。
コイヌガラシ	環境省 RL (NT) 埼玉県 RDB (NT)	【早春季】 水田脇の水路内や畔の 39 か所で確認された。明るく湿った立地に生育。	湿地に多いアブラナ科の草本。花期は 4～5 月。
タコノアシ	環境省 RL (NT) 埼玉県 RDB (VU)	【秋季】 セイタカアワダチソウやヒメガマなどの草地内の明るく湿った立地に生育。 【春季】 2 か所で確認され、1 か所はヒメガマ草地内の明るく過湿な立地、1 か所はヨシ・ヒメガマ草地内の明るく過湿な立地に生育。	泥湿地、沼、水田、川原などで、水位の変動する場所に多いユキノシタ科の多年草。
ヒメミソハギ	埼玉県 RDB (NT)	【秋季】 2 か所で確認され、1 か所は休耕水田の明るく過湿な立地、1 か所はヨシ草地脇の中陰の水中に生育。	水田や湿地に生えるミソハギ科の一年草。花期は 9～11 月。
エゾミソハギ	埼玉県 RDB (EN)	【春季】 水路脇の路傍 1 か所で確認された。	沼地によく群生するミソハギ科の草本。花期は 7～8 月。
ミズマツバ	環境省 RL (VU) 埼玉県 RDB (VU)	【夏季】 2 か所で確認され、1 か所は休耕水田の明るく湿った立地、1 か所は水田脇の明るい水中に生育。 【秋季】 稲刈り後の水田内 4 か所で確認され、明るく過湿な立地に生育。	水田や湿地に生えるミソハギ科の小さな一年草。花期は 8～10 月。
ミゾコウジュ	環境省 RL (NT) 埼玉県 RDB (NT)	【春季】 水路脇などの 4 か所で確認された。明るく乾燥した立地や明るい水中に生育。	河川敷などやや湿り気の多い場所に生えるシソ科の草本。花期は 5～6 月。
キクモ	埼玉県 RDB (NT)	【夏季】 水田脇や休耕水田の 4 か所で確認され、明るい水中に点在。 【秋季】 稲刈り後の水田内 3 か所で確認され、明るく過湿な立地に生育。 【春季】 2 か所で確認され、1 か所は低茎草地内の明るい水中に点在、1 か所は休耕水田内の明るい水中に点在。	水田や浅い沼などの水中に生えるゴマノハグサ科の多年草。8～9 月、水上葉の脇に花をつける。

表 10-9-9(2) 重要種確認状況(植物)

種目名	指定区分	確認状況等	生態的特長
カワヂシャ	環境省 RL (NT) 埼玉県 RDB (VU)	【早春季】 水田脇の水路内 5 か所で確認された。明るく過湿な立地に生育。 【春季】 水路脇の 2 か所で確認された。明るい水中に生育。	川岸や水田などの湿地に生えるゴマノハグサ科の草本。花期は 5～6 月。
キタミソウ	環境省 RL (VU) 埼玉県 RDB (EN)	【秋季(補足調査)】 高久用水路、及びその枝線水路内で 100 個体以上確認。春季～夏季は灌漑用水により水没し、秋季～冬季は水位が低下し湿った環境となる水路内のみ生育。	水辺の泥中に生えるゴマノハグサ科の小さな草本。花期は 6～10 月。
タウコギ	埼玉県 RDB (NT)	【夏季】 水田脇や休耕水田の 8 か所で確認され、明るい水中や過湿な立地に生育。 【秋季】 浅く灌水した休耕水田内や畔、水路など 8 か所で確認され、明るい立地に生育。 【春季】 2 か所で確認され、1 か所は水田脇の水路内の明るく過湿な立地、1 か所は休耕水田内の明るく過湿な立地に生育。	水田の畦道や湿地に多いキク科の多年草。花期は 8～10 月。
ノニガナ	埼玉県 RDB (NT)	【早春季】 造成地の法面で、明るく乾燥した立地に生育。 【春季】 平坦地の畔の低茎草地で、明るく適潤な立地に生育。	水田の畔や下流域の河川敷などに生えるキク科の草本。花期は 4～5 月。
マツカサススキ	埼玉県 RDB (NT)	【夏季】 2 か所で確認され、1 か所は水田脇の明るく過湿な立地に 10 個体が生育。1 か所はウキヤガラ草地内の明るい立地に抽水状態で 10 個体が点在。 【秋季】 2 か所で確認され、1 か所はセイタカアワダチソウやヒメガマなどの草地内の明るく湿った立地、1 か所はヨシ草地内の中陰の水中に生育。	平地の湿地に生えるカヤツリグサ科の多年草。
タタラカンガレイ	埼玉県 RDB (CR)	【夏季】 2 か所で確認され、1 か所は休耕水田の明るい立地に 1 個体が生育。1 か所は休耕水田の明るい水中に 1 個体が生育。	池沼の淵や湿地に生えるカヤツリグサ科の草本。埼玉県内では加須・中川低地に分布。



図 10-9-3 重要種確認位置 (植物 夏季)

凡 例

⋯⋯⋯ : 計画地 □ : 生物調査範囲(計画地周辺 200m)

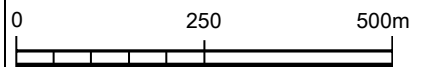
— — — : 行政界

● : 重要種確認位置(夏季)

- | | |
|------------|-------------|
| 1: ミズワラビ | 2: ミズマツバ |
| 3: キクモ | 4: タウコギ |
| 5: マツカサススキ | 6: タタラカンガレイ |



1 : 10,000



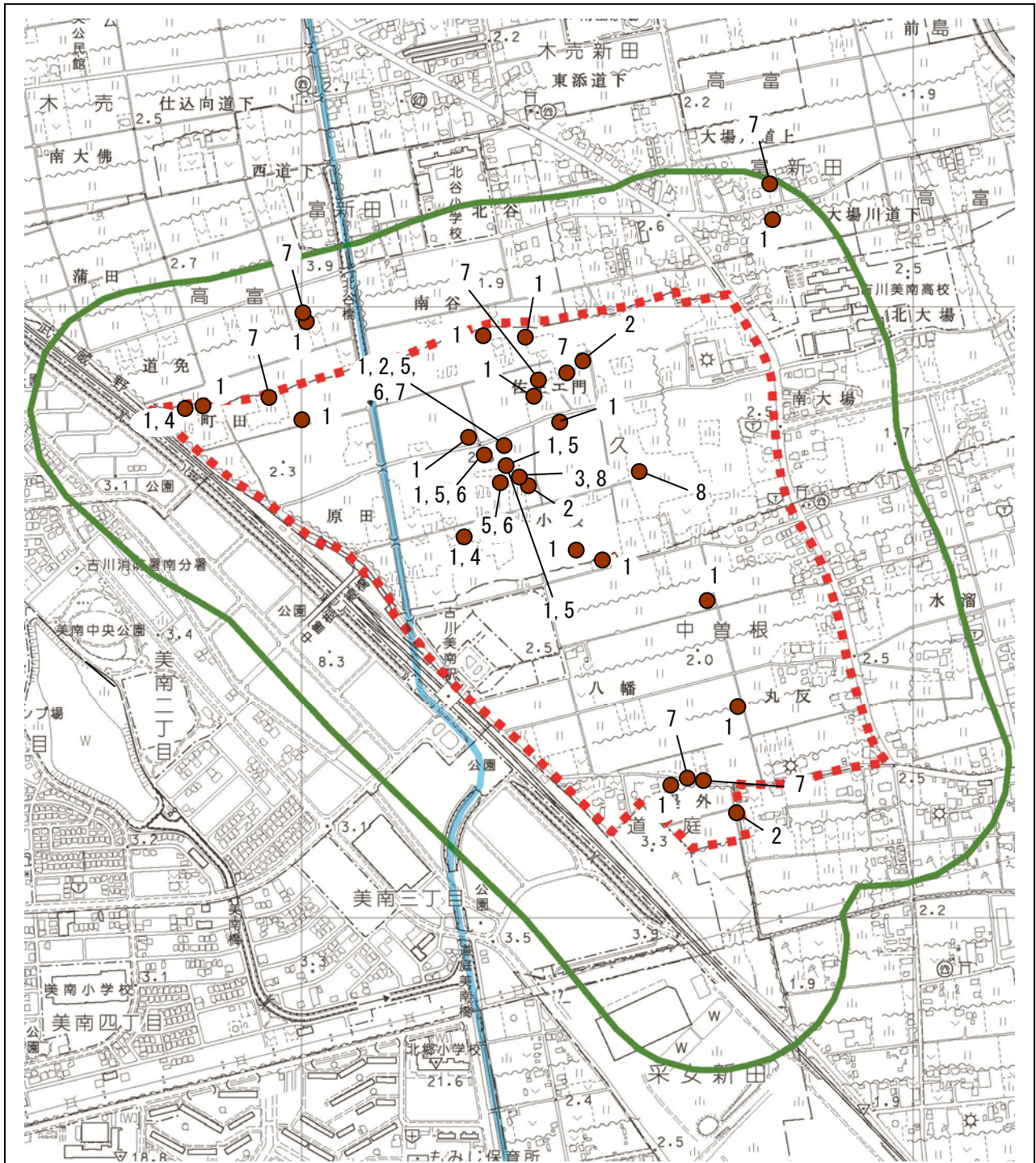


図 10-9-4 重要種確認位置 (植物 秋季)

凡 例

⋯⋯⋯ : 計画地 □ : 生物調査範囲(計画地周辺 200m)

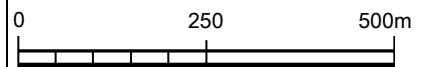
— — — : 行政界

● : 重要種確認位置(秋季)

- | | |
|----------|--------------|
| 1: ミズワラビ | 2: シロバナサクラタデ |
| 3: タコノアシ | 4: ヒメミソハギ |
| 5: ミズマツバ | 6: キクモ |
| 7: タウコギ | 8: マツカサススキ |



1 : 10,000



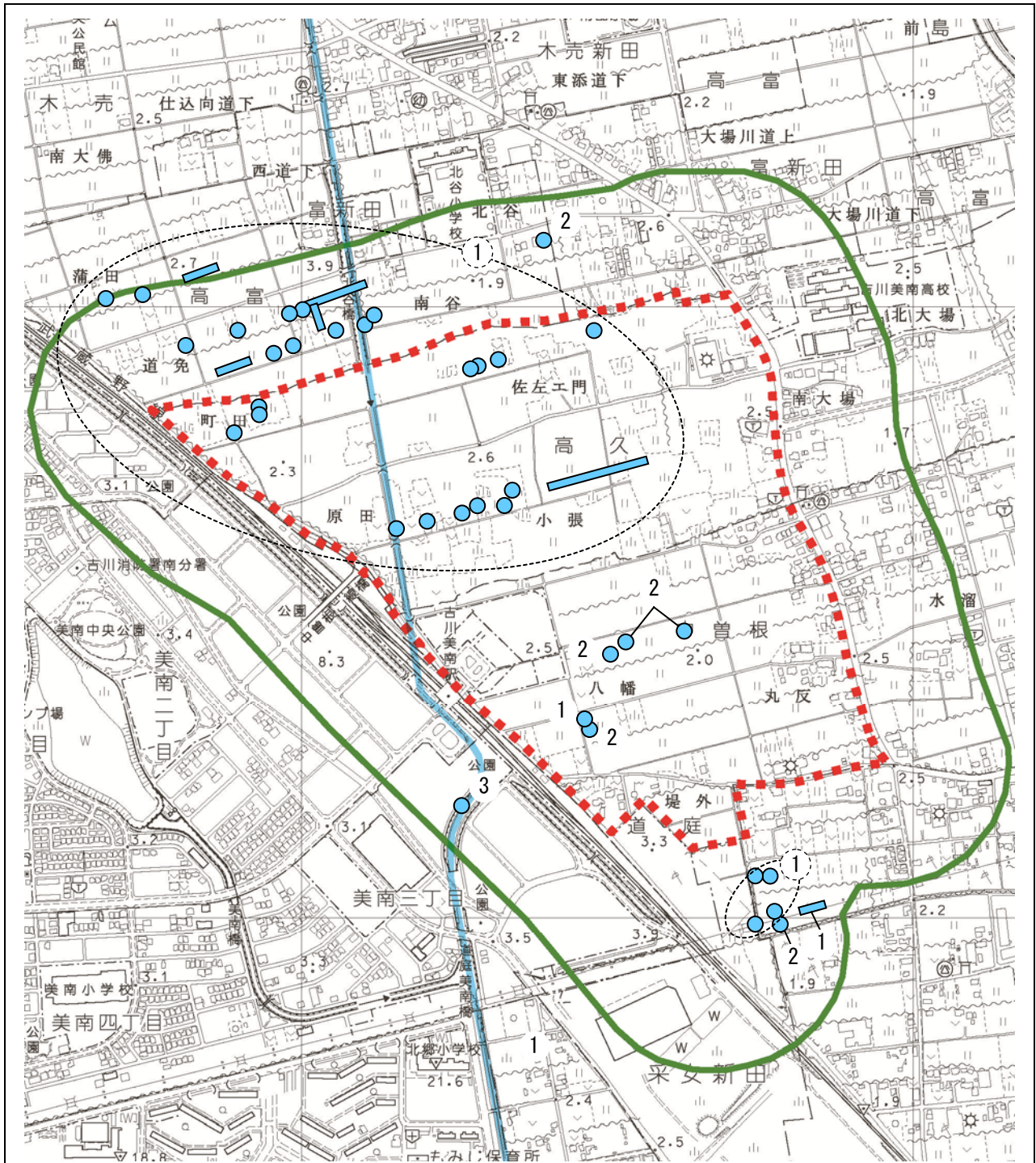


図 10-9-5 重要種確認位置 (植物 早春季)

凡 例

⋯⋯ : 計画地 □ : 生物調査範囲(計画地周辺 200m)

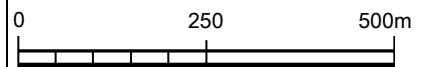
— : 行政界

● □ : 重要種確認位置(早春季)

- 1 : コイヌガラシ
- 2 : カワヂシャ
- 3 : ノニガナ



1 : 10,000



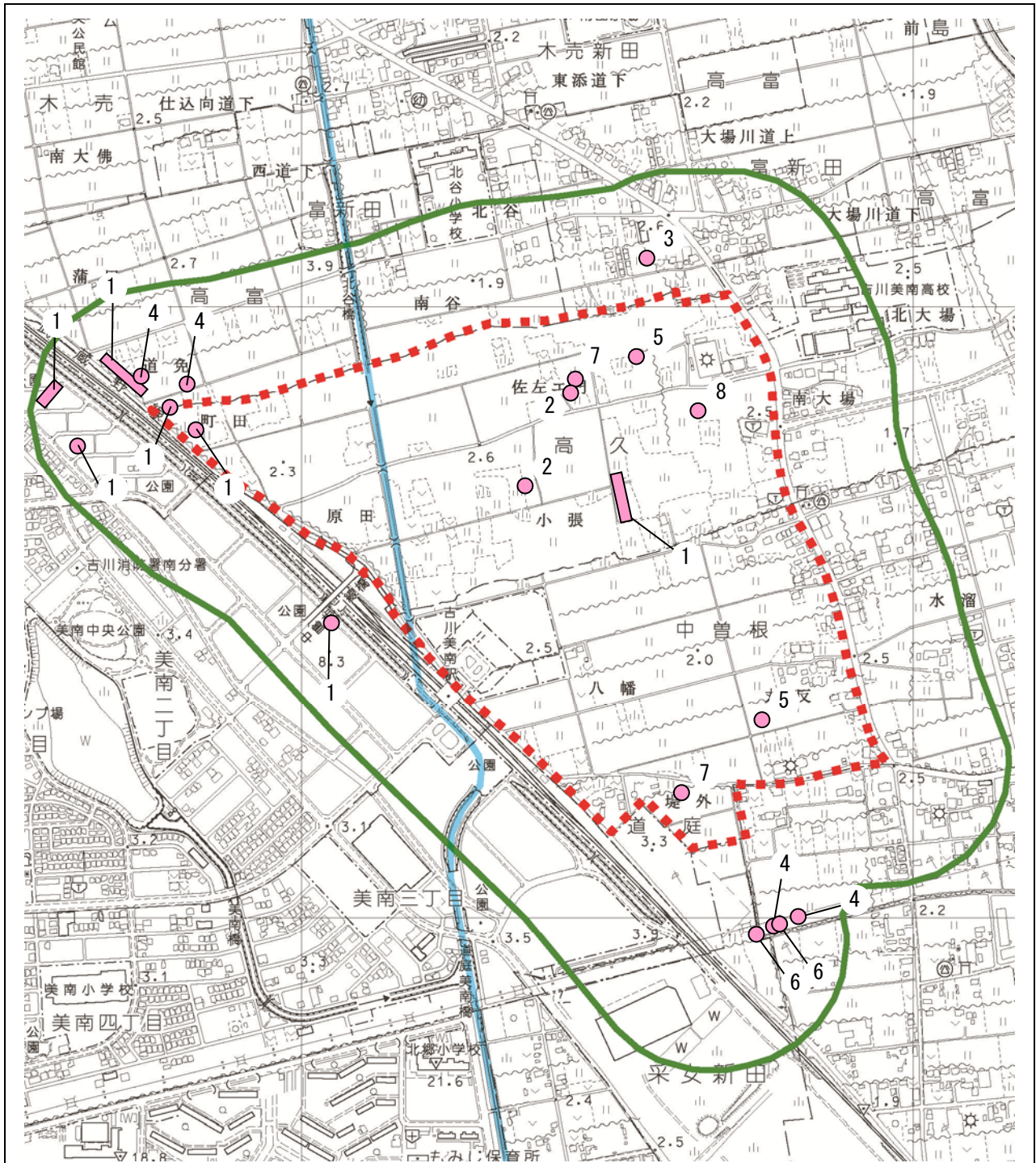


図 10-9-6 重要種確認位置 (植物 春季)

凡 例

⋯⋯⋯ : 計画地 □ : 生物調査範囲(計画地周辺 200m)

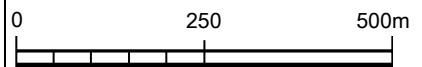
— — — : 行政界

● : 重要種確認位置(春季)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1: コキシギシ | 2: タコノアシ |
| 3: エゾミソハギ | 4: ミゾコウジュ |
| 5: キクモ | 6: カワヂシャ |
| 7: タウコギ | 8: ノニガナ |



1 : 10,000



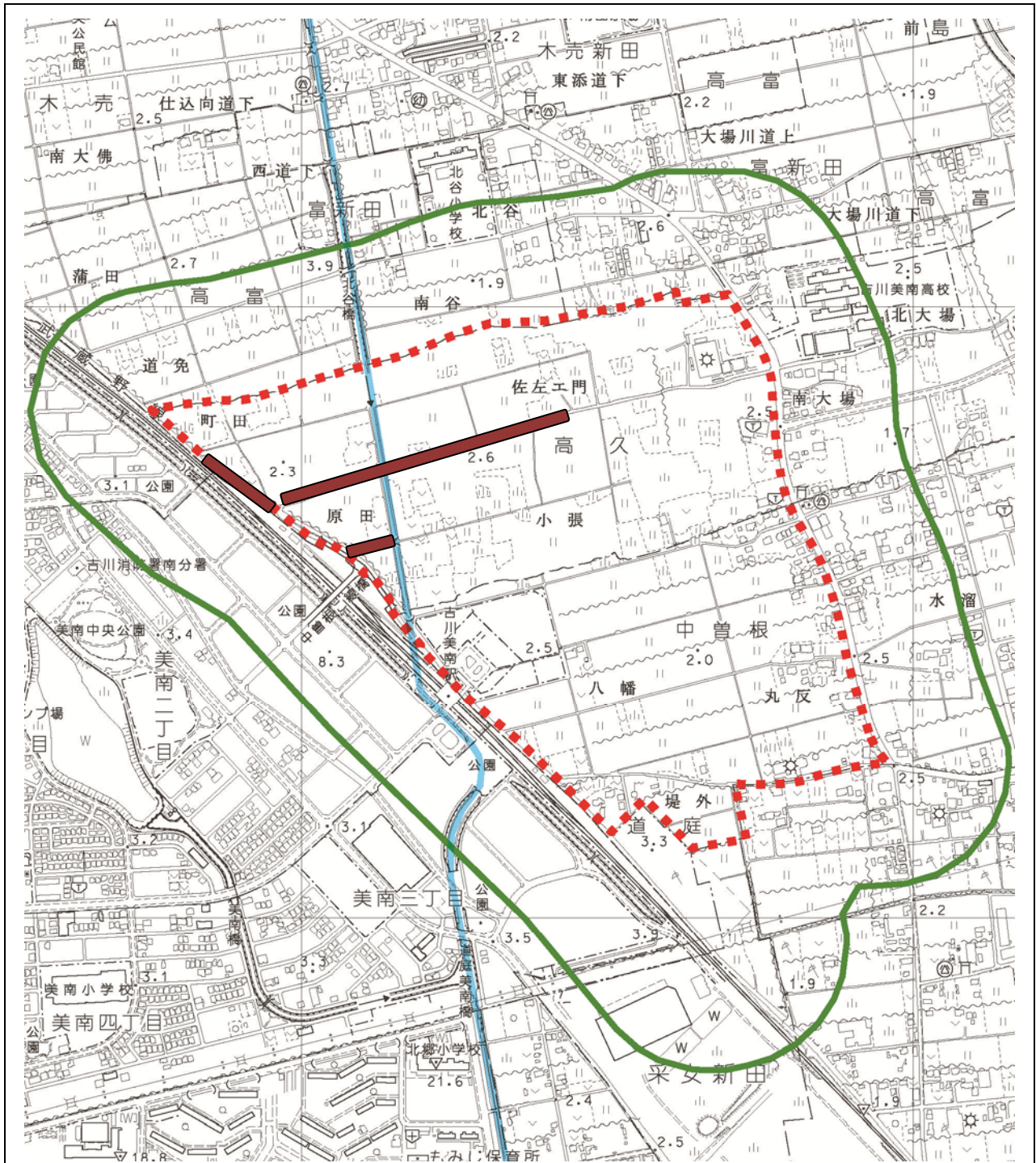


図 10-9-7 重要種確認位置(キタミツウ)

凡 例

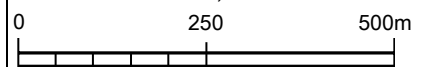
⋯⋯⋯ : 計画地 □ : 生物調査範囲(計画地周辺 200m)

■■■■ : 行政界

● ■ : 重要種確認位置(キタミツウ)



1 : 10,000



ウ. 外来種等

確認された外来種は表 10-9-10 に示すとおりであり、30 種が確認されている。うち、特定外来生物として、ナガエツルノゲイトウが確認された。

表 10-9-10 外来種一覧(植物)

科名	種名	外来種区分		調査時期			
		外来生物法	生態系被害防止 外来種リスト	夏	秋	早春	春
タデ	エゾノギシギシ	—	重点対策外来種			○	
ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	特定外来生物	緊急対策外来種	○	○		
マメ	イタチハギ	—	重点対策外来種				○
カタバミ	ムラサキカタバミ	—	その他の総合対策外来種	○			○
アカハナ	マツヨイグサ	—	—	○		○	○
	コマツヨイグサ	—	—	○	○		○
モクセイ	トウネズミモチ	—	重点対策外来種	○	○	○	○
ナス	ワルナスビ	—	—	○			○
オオハコ	ヘラオオハコ	—	—	○		○	○
キク	ブタクサ	—	—	○			○
	クワモドキ	—	重点対策外来種		○		○
	アメリカセンダングサ	—	その他の総合対策外来種	○	○		○
	コセンダングサ	—	—	○	○		○
	アメリカオニアザミ	—	その他の総合対策外来種	○	○	○	○
	オオアレチノギク	—	—	○			○
	ヒメムカシヨモギ	—	—	○			
	ハルジオン	—	—	○	○	○	○
	ブタナ	—	—	○			
	セイタカアワダチソウ	—	重点対策外来種	○	○	○	○
	ヒメシヨオン	—	その他の総合対策外来種	○		○	○
	セイヨウタンポポ	—	重点対策外来種	○	○	○	○
	オオナモミ	—	その他の総合対策外来種		○	○	
トチカカミ	コナタモ	—	重点対策外来種		○	○	
アヤメ	キシヨウブ	—	重点対策外来種				○
イネ	メリケンカルカヤ	—	その他の総合対策外来種				○
	カモカヤ	—	産業管理外来種				○
	シナダレスメカヤ	—	重点対策外来種	○	○		○
	オニウシノケグサ	—	産業管理外来種	○		○	○
	ネスミムギ	—	—	○		○	○
カヤツクリグサ	メリケンカヤツリ	—	重点対策外来種				○

注1) 外来生物法：「特定外来生物による生態系等に係る被害防止に関する法律」(2004年、法律第78号)

注2) 生態系被害防止外来種リスト：我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(環境省・農林水産省、2015)

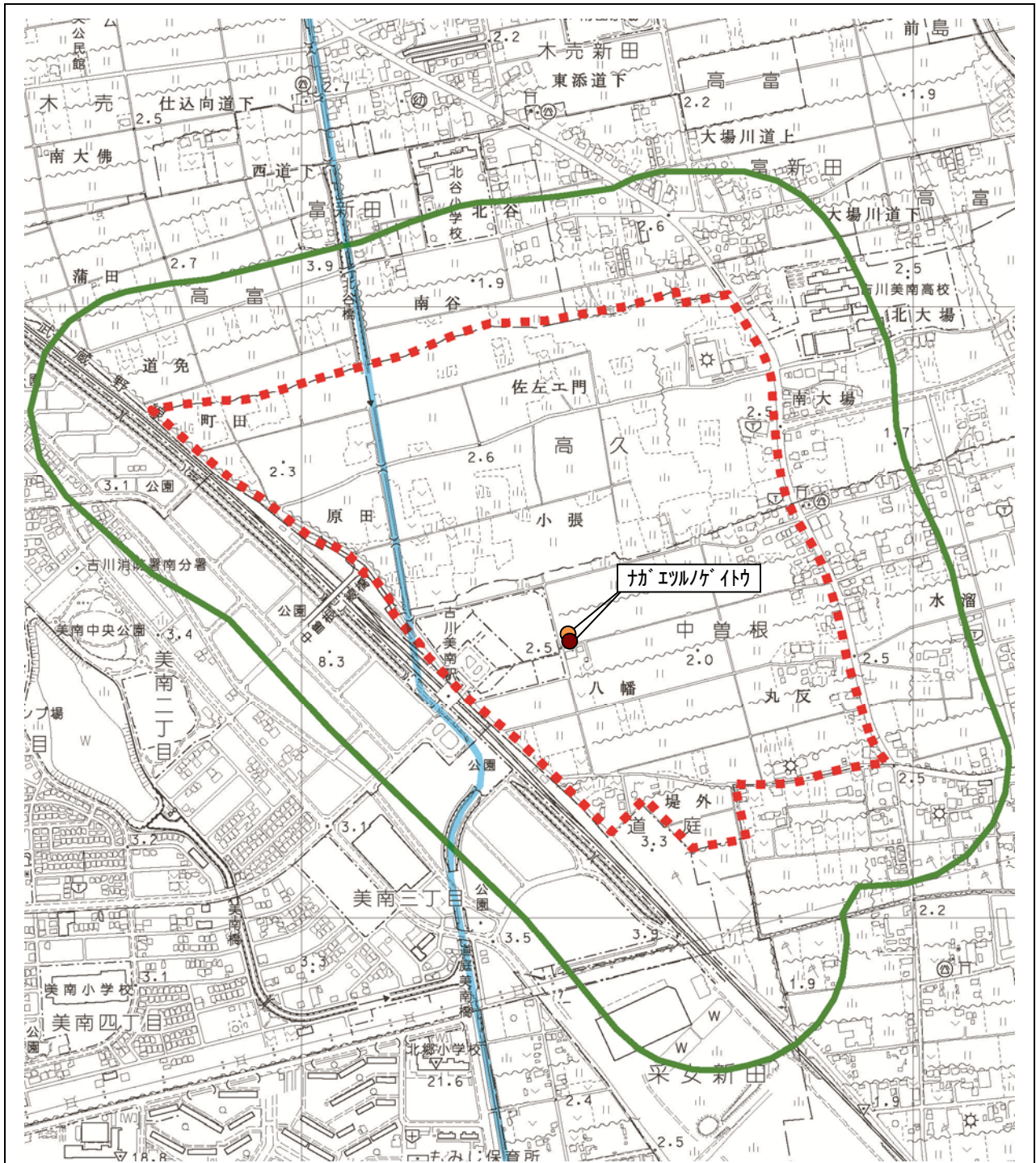


図 10-9-8 外来種確認位置 (植物)

凡 例

⋯⋯⋯ : 計画地 □ : 生物調査範囲(計画地周辺 200m)

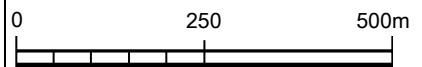
— — — : 行政界

● : 外来種確認位置(夏季)

● : 外来種確認位置(秋季)



1 : 10,000



②植物群落の状況

各群落の概況については表 10-9-11 に、また、調査地域の現存植生図は図 10-9-9 に示すとおりである。

計画地の大半は、水田や畑などの耕作地で占められており、ところにより耕作放棄され、休耕畑雑草群落、休耕水田雑草群落となっている。また、計画地内には多年生広葉草本群落であるセイタカアワダチソウ群落や単子葉植物群落であるウキヤガラ群落、ヒメガマ-コガマ群落、ヨシ群落が点在している。

計画地周辺は、市街地、緑の多い住宅地、道路、耕作地が大半であり、一部に落葉広葉樹林の群落であるムクノキ-エノキ群落や、多年生広葉草本群落であるセイタカアワダチソウ群落が点在している。

なお、本地域において、保全すべき群落はない。

表 10-9-11 (1) 群落の概況

群落名	概況
ムクノキ-エノキ群落	<p>ムクノキ、エノキはともにニレ科の落葉高木で、山地に生えるがしばしば道路脇にも植えられ、大きいものは高さ 20m、径 1m 程になる。</p> <p>調査範囲内で確認された群落は、ヤブツバキクラス域の自然堤防や背後の沖積低地などに成立するムクノキ-エノキ群集の断片と考えられる。耕作地脇や橋梁脇などで小規模な群落を確認された。</p> <p>植生調査地点では、群落高 10~13m で上層にはエノキやムクノキが優占し、林床ではトウネズミモチやノイバラなどがみられた。</p>
ハンノキ植林	<p>ハンノキは過湿で停滞水的な土壌環境を好むカバノキ科の落葉高木で、しばしば植林される。大きいものは高さ 17m、径 60cm 程になる。</p> <p>ハンノキ群落は谷戸の奥などに成立することが多い。調査範囲内では南側の水路沿いに列植されたと考えられる小規模な樹林が一ヶ所確認された。</p> <p>群落高は 10m で上層にはハンノキが優占し、下層にはエノキ、トウネズミモチ、ジャノヒゲなどが確認された。</p>
クヌギ植林	<p>クヌギは山林に多いブナ科の落葉高木で、普通植林されている。大きなものでは高さ 17m、径 60cm 程になる。</p> <p>調査範囲内では、ハンノキ植林が成立している水路に、ハンノキ植林と連続するように小規模なクヌギ植林が確認された。</p> <p>群落高は 12m で高木層にはクヌギが優占し、亜高木層ではトネリコが優占していた。低木層にはエノキ、トネリコ、アカメヤナギ、アカメガシワなど木本類がみられ、草本層ではジャノヒゲやススキ、ノイバラ、クサヨシなどが確認された。</p>
ウキヤガラ群落	<p>ウキヤガラはカヤツリグサ科の草本で、全国の湖沼、ため池、河川などの浅水域~水辺の湿地に生育する。大型の多年草で、高さ 1~1.5m 程になる。</p> <p>ウキヤガラ群落はウキヤガラが優占する高茎の抽水植物群落であり、調査範囲内では、湿田が休耕・放棄された部分でまとまった植分が 2ヶ所確認された。</p> <p>植生調査地点では群落高 1.5~2.3m、高い植生率でウキヤガラが密生しており、ヨシが低被度で混生し、植分によってはサデクサやヘクソカズラなどのつる植物もみられた。</p>

表 10-9-11(2) 群落の概況

群落名	概況
ヒメガマ-コガマ群落	<p>ヒマガマ、コガマはともに池沼の水際付近や浅水中、河川の流れの緩やかな部分に生育するガマ科の多年草である。</p> <p>ヒメガマ・コガマ群落は、ヒメガマやコガマが優占する高茎の抽水植物群落である。両種が混生する植分のほか、いずれか一方の種のみが出現する植分も、この凡例にまとめている。調査範囲内では、休耕・放棄水田の一部に成立していた。</p> <p>植生調査地点では群落高 1.6 ～1.8m、植被率 60～95%でヒメガマやコガマが優占し、アシカキ、カズノコグサ、クサネム、ヤナギタデ等の湿生植物が混生していた。</p>
ヨシ群落	<p>ヨシは川岸や浅い水中に生育するイネ科の大型の多年草で、高さ 2～3m に達する。</p> <p>ヨシ群落は大型抽水植物であるヨシが優占する群落で、調査範囲内では中央部分から北東側にかけての水田地帯で、湿田が休耕・放棄された部分において多くの植分が確認された。</p> <p>植生調査地点では群落高 2.5～3.0m、植被率 85～90%でヨシが密生し、セイタカアワダチソウ、イシミカワ、アシカキ等が混生していた。</p>
オギ群落	<p>オギは河川の湿った砂礫地などに生育する大型のイネ科植物である。</p> <p>オギ群落は、ヨシ群落と同様に高さ 2～3m に達し、大川の高水敷や中洲などにしばしば大きな群落を形成する。調査範囲内では、比較的乾燥した放棄・休耕水田で小規模な植分が確認されたほか、JR 武蔵野線沿いに帯状の植分が確認された。</p> <p>植生調査地点では群落高 2.0～2.5m、植被率 90%でオギが密生しており、植分によってはヨシやヘクソカズラが低被度で混生していた。</p>
セイバンモロコシ群落	<p>外来の高茎イネ科草本であるセイバンモロコシが優占する群落であり、しばしば河川の堤防法面などにまとまった群落を形成する。調査範囲内では、北西側の水田地帯で、小さな植分が 1ヶ所確認されたのみである。</p> <p>植生調査地点では群落高 1.5m、植被率 100%でセイバンモロコシが密生し、下層にはエゾノギシギシやナガバギシギシが混生していた。</p>
セイタカアワダチソウ群落	<p>外来のキク科植物であるセイタカアワダチソウが優占する群落である。調査範囲内では、比較的乾燥した放棄・休耕水田で成立が確認されたほか、西側の造成跡地でまとまった植分が確認された。</p> <p>植生調査地点では群落高 1.8m、植被率 100%でセイタカアワダチソウが密生しており、ツルマメ、チゴザサ、チガヤ等が低被度で混生していた。</p>
オオアレチノギク - ヒメムカシヨモギ群落	<p>外来の高茎のキク科植物であるオオアレチノギクやヒメムカシヨモギが優占する群落で、造成地などに比較的早い時期に成立する。調査範囲内では、南西側の造成が行われた部分で小規模な植分が確認された。</p> <p>植生調査地点では群落高 1.0～1.4m、植被率 80～90%でヒメムカシヨモギが優占し、オオアレチノギク、ヤハズソウ、メドハギ、ススキ、ツククサ、シバ等が混生していた。</p>

表 10-9-11(3) 群落の概況

群落名	概況
クズ-カナムグラ群落	<p>クズはマメ科の多年生ツル植物で、造成跡地、藪、畑放棄地などで強く繁茂する。カナムグラはクワ科の一年生ツル植物で、河川敷や畑放棄地などに繁茂する。両種が混生している群落をクズ-カナムグラ群落としてまとめた。</p> <p>植生調査地点では群落高 0.9m、植被率 100% でクズが優占し、カナムグラも 50%以上の植被率で混生していた。他にはアキノエノコロやアキノノゲシが僅かに確認された。</p>
休耕畑雑草群落	<p>休耕畑地及びその周辺に成立する群落で、好窒素性の一年草が主体となる。調査範囲内では、ところどころに点在するが、植生図上で表現されている植分は一ヶ所のみである。</p> <p>植生調査地点では群落高 0.5m、植被率 75% でハナイバナが優占し、ザクロソウ、ハキダメギク、メヒシバ、エノコログサ、ヒメオドリコソウなどが混生していた。</p>
休耕水田雑草群落	<p>休耕水田もしくは放棄水田に成立した群落で、調査範囲内では、水田地帯の中に小規模な植分が点在していた。</p> <p>植生調査地点では群落高 0.5~0.8m、植被率 80% で、イヌビエやタマガヤツリが優占し、ミズワラビ、ミズマツバ、ヒレタゴボウ、チョウジタデ、スカシタゴボウ、ヒナガヤツリ等の低茎の湿生植物が混生する植分である。</p>
路傍・空地雑草群落	<p>路傍や空地などのやや乾性な立地に成立する低茎草本が主体となる群落である。調査範囲内では、西側の造成跡地にまとまった植分が成立しており、他に民家周辺の空き地などに点在していた。</p> <p>植生調査地点では、群落高 0.7m、植被率 80% でメヒシバが優占し、アキノエノコログサやシロツメクサ、キンエノコロ、エノコログサ、ヨモギなどが混生していた。</p>

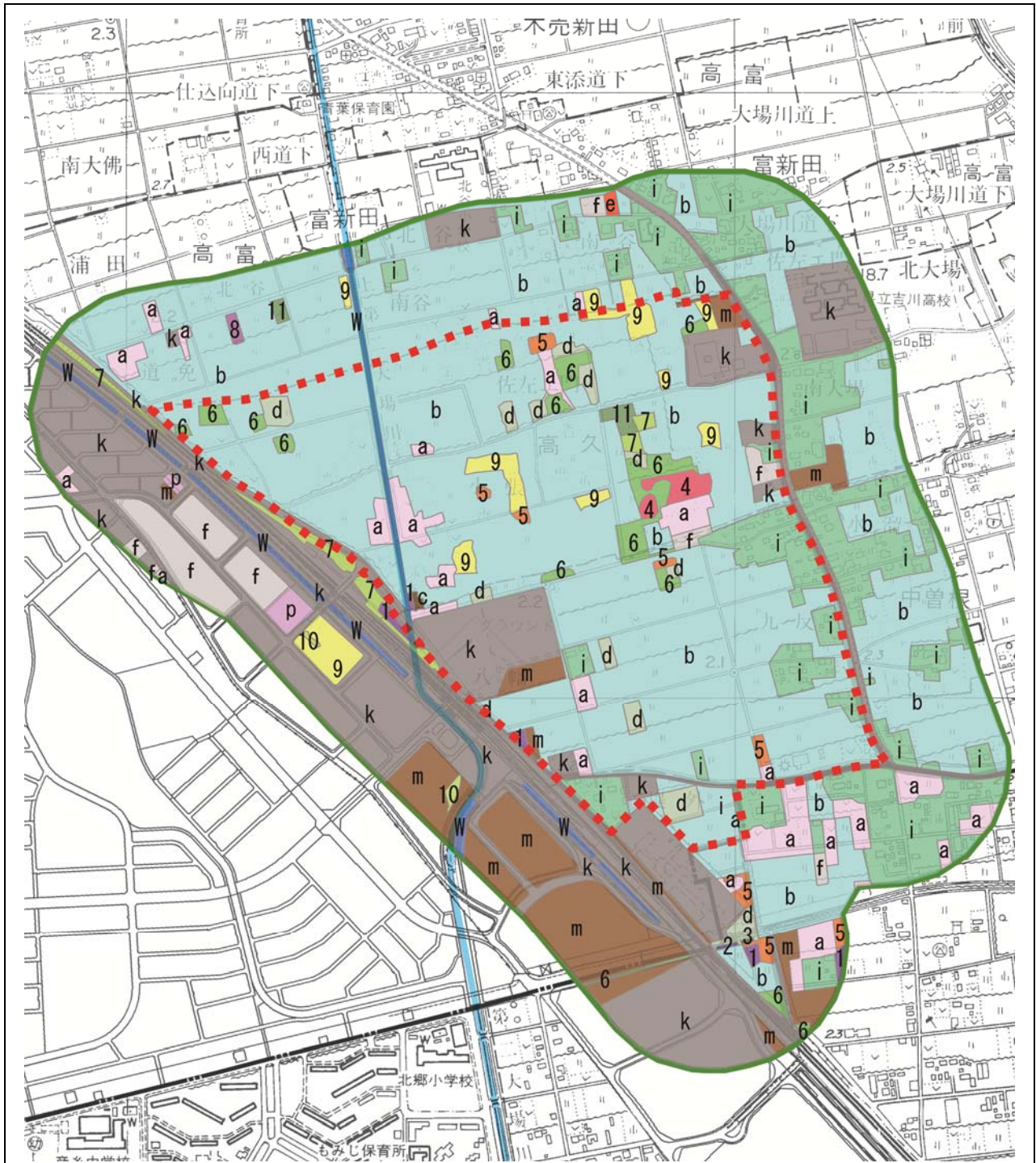


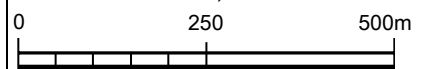
図 10-9-9 現存植生図

凡 例

- | | | | |
|--|--------------------------|--|---------------|
| | : 計画地 | | : 畑雑草群落 (畑) |
| | : 生物調査範囲 | | : 水田雑草群落 (水田) |
| | : ムクノキ・エノキ群落 | | : 休耕畑雑草群落 |
| | : ハンノキ植林 | | : 休耕水田雑草群落 |
| | : クヌギ植林 | | : 果樹園 |
| | : ウキヤガラ群落 | | : 路傍・空地雑草群落 |
| | : ヒメガマ・コガマ群落 | | : 緑の多い住宅地 |
| | : ヨシ群落 | | : 市街地等 |
| | : オギ群落 | | : 造成地等 |
| | : セイバンモロコシ群落 | | : 公園 |
| | : セイタカアワダチソウ群落 | | : 開放水域 |
| | : オオアレチノギク
ヒメムカシヨモギ群落 | | |
| | : クズ・カナムグラ群落 | | |



1 : 10,000



(3) 植生の基盤となる土壌の状況

計画地及びその周辺地域の土壌は、図 10-9-10 に示すとおりである。

計画地の大部分は低位泥炭土壌の「下八ツ林統」^{しもやっぱやし}が占めており、一部に細粒灰色低地土壌の「下樋遣川統」^{しもひやりがわ}も分布している。

計画地及びその周辺地域の土壌生産力は、図 10-9-11 に示すとおりである。

計画地はⅢ等級に位置しており、土壌生産力はあまり高くない地域である。

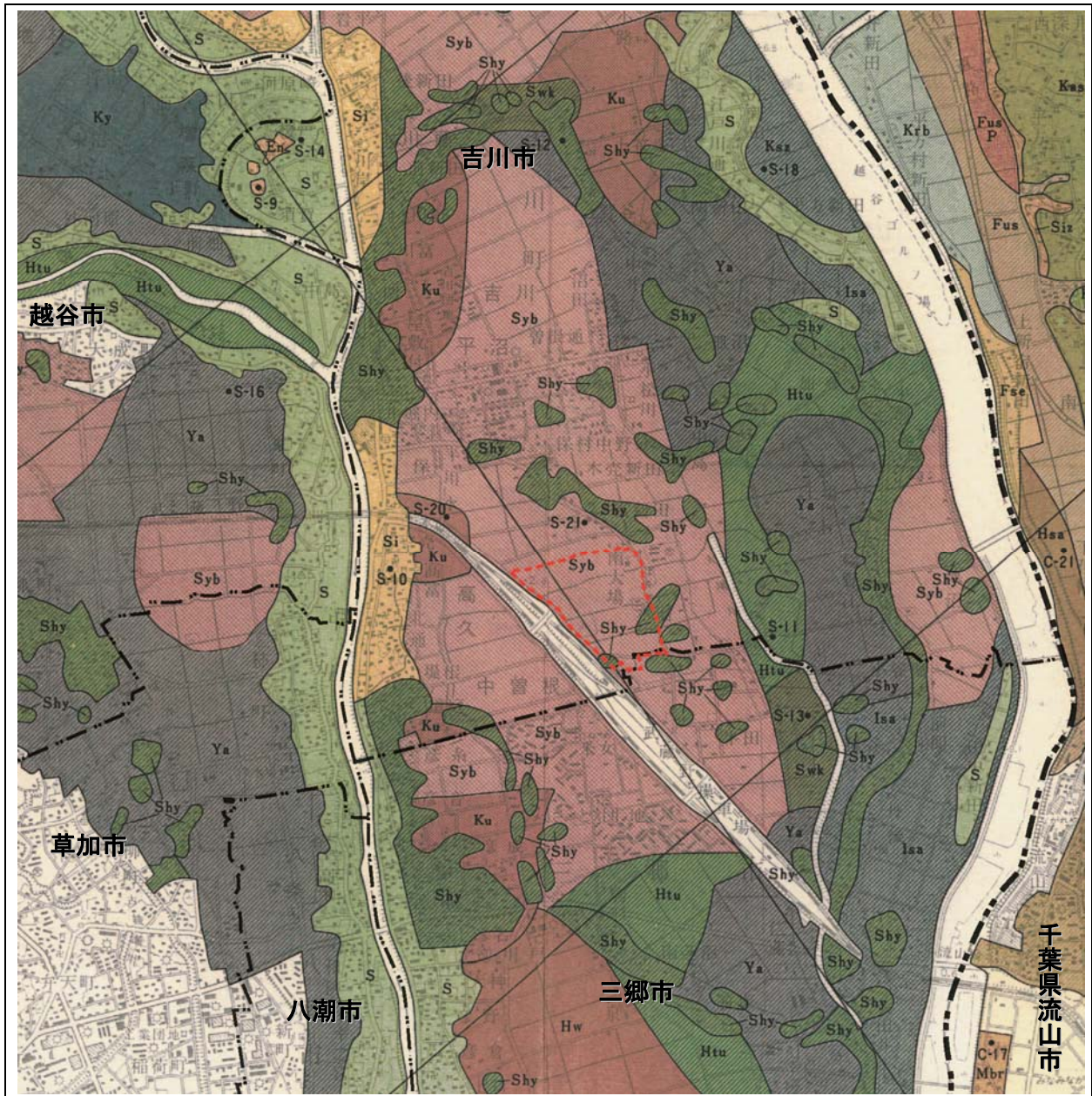


図 10-9-10 土壤図

凡 例

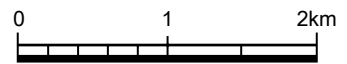
⋯⋯⋯ : 計画地

— — — : 行政界

厚層黒ボク土壌 Or 大竹統	黒ボクグライ土壌 Mtu ミツ木統	粗粒グライ土壌 Ksa 上笹塚統	黒泥土壌 Hw 花和田統
Og 太田ヶ谷統	乾性褐色森林土壌 Ya 山下統	Ak 赤沼統	Smu 下貉統
Oq 黒ボク土壌	褐色低地土壌 Ee 榎戸統	S 清水統	
Ory 大山統	Si 新戒統	細粒グライ土壌 Isa 伊佐沼統	
Ow 桶川統	Htu 平塚統	Ya 山田統	
Kb 青山統	下樋遣川統 Shy	グライ土壌 Ky 片柳統	
多湿黒ボク土壌 Nsu 西大久保統		粗粒グライ土壌 Ksa 上笹塚統	
		赤沼統 Ak	
		清水統 S	
		伊佐沼統 Isa	
		山田統 Ya	
		片柳統 Ky	
		下ハツ林統 Syb	
		小沼統 Kan	
		沢木統 Swk	
		花和田統 Hw	
		下貉統 Smu	



1 : 50,000



出典：
「土地分類基本調査：土壤図（野田）」
埼玉県

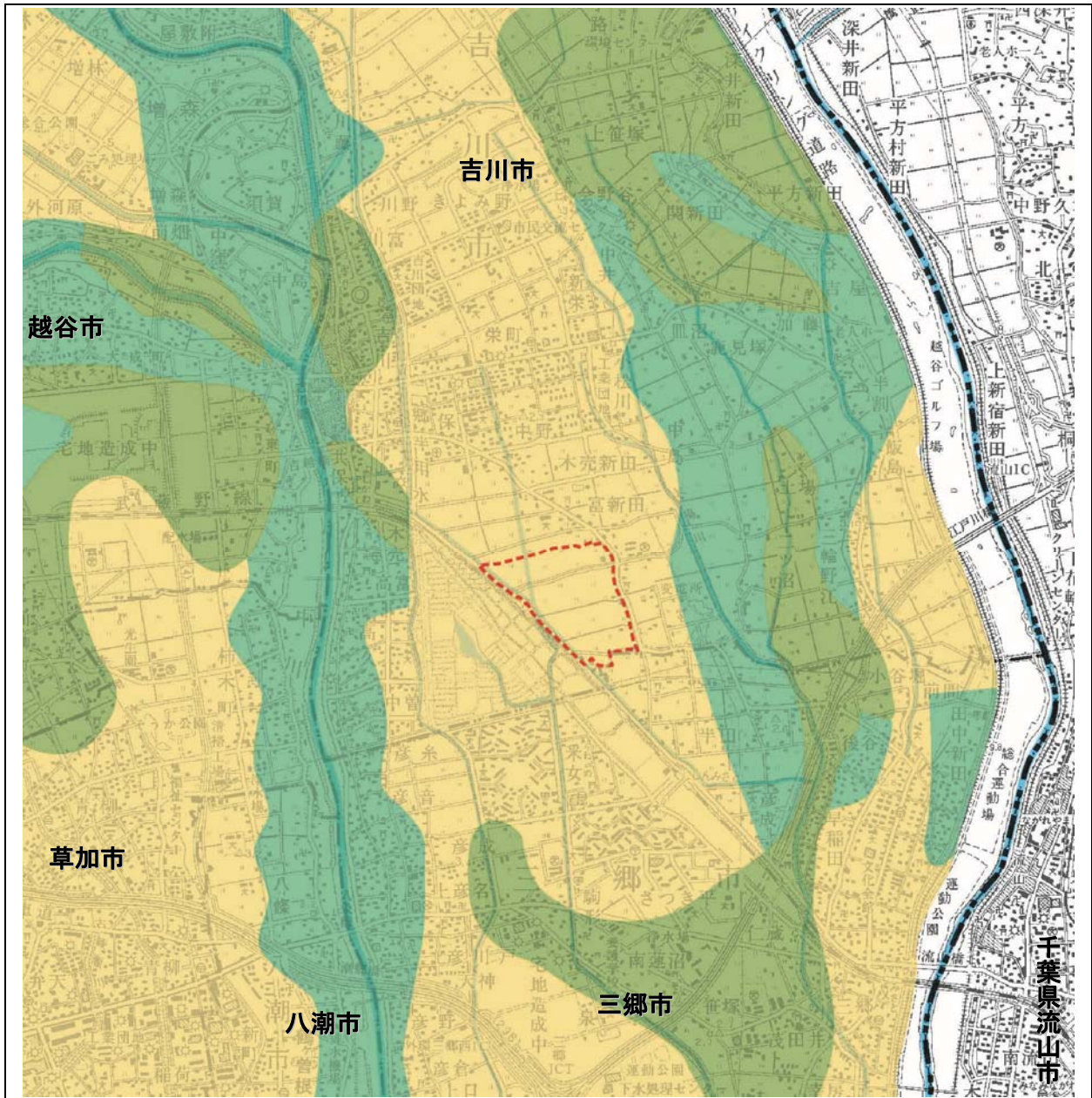


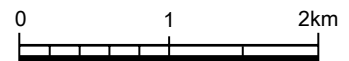
図 10-9-11 土壤生産力可能性等級区分図

凡 例

- : 計画地
- : 行政界
- : I 等級 (生産力が高く、特に改良を要しない)
- : II 等級 (生産力が高いが、多少の改良を要する)
- : III 等級 (生産力は余り高くなく、改良する余地は大きい)



1 : 50,000



出典 :

「土地分類図(土壤生産力可能性等級区分図) 埼玉県」経済企画庁

(4) 緑被率又は緑視率等を指標とした緑の量

緑の量については、計画地内の緑被面積を植生図より計測することにより把握した。結果は、表 10-9-12 に示すとおりである。

なお、緑の量としてカウントした群落等は、植栽樹林、人為的な攪乱の少ない群落（外来種優先群落を除く）、休耕畑雑草群落、休耕水田雑草群落、緑が多い住宅地とした。

計画地は、その大部分が緑被面積算定対象外の水田、畑といった耕作地であるため、緑被面積は 7.8ha と全体の約 13% を占めるに過ぎず、緑の量は少ない。

表 10-9-12 緑の量

計画地内の土地の状況	現況	
	面積 (ha)	割合 (%)
ムクノキーエノキ群落	0.1	0.2
ウキヤガラ群落	0.5	0.8
ヒメガマーコガマ群落	0.3	0.5
ヨシ群落	1.9	3.2
オギ群落	0.2	0.3
クズーカナムグラ群落	0.2	0.3
休耕畑雑草群落	0.04	0.1
休耕水田雑草群落	1.4	2.4
緑の多い住宅地	3.2	5.4
小 計	7.8	13.2
計画地全体面積	59.1	100.0

(5) その他の予測・評価に必要な事項

①広域的な植物群落及び植物相の状況

前述の既存資料調査結果で示したとおりである。

②過去の植物群落及び植物相の変遷

「改訂・埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成 24 年 3 月 埼玉県)によると、埼玉県における概要は以下のとおりである。

埼玉県は水平的気候区分の冷温帯域と暖温帯域が交差している地域であり、低山地では落葉樹も広葉樹も混在しているのが特徴である。これら森林群落以外にも、岩角地、風衝地、河川流域の水辺、そのほか路傍・林縁などに多様な草本群落が持続的に成立している。

近年、環境の変化や遷移の進行、外来種の侵入、野生動物の食害などにより、相観はそれほど変化していなくても、その構成種に大きな変化が生じている場所が数多くある。

③地域住民その他の人との関わりの状況

計画地は、面積の約 7 割が田を主とする耕作地であり、人為的管理の継続によって創出される環境に生育する植物がみられる。

2. 予測

1) 予測内容

工事中及び供用時における、保全すべき種の生育地の改変の程度、その他の生育環境への影響及び緑の量の変化の程度を予測した。

2) 予測方法

本事業の計画及び現存植生図、生育確認位置との重ね合わせにより予測した。

3) 予測地域・地点

予測地域は、現地調査地域及び調査地点と同様とした。

4) 予測対象時期

(1) 工事中

工事中は、保全すべき種にとって最も影響が大きいと考えられる工事最盛期とした。

(2) 供用時

供用時は、工事が完了し、時間の経過とともに環境が安定した時期とした。

5) 予測条件

(1) 建設機械の稼働、資材運搬等車両の走行、造成等の工事

建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事に係る工事計画は、「第2章 都市計画対象事業の目的及び内容」に示すとおりである。

(2) 造成計画

造成計画は、「第2章 都市計画対象事業の目的及び内容」に示すとおりである。

(3) 公園・緑地計画

公園・緑地計画は、「第2章 都市計画対象事業の目的及び内容」に示すとおりである。

(4) 環境の保全に関する配慮方針

- ・保全すべき種については、必要に応じて移植などの環境保全措置を検討する。
- ・公園、緑地計画により生育地の創出を図る。
- ・既存種、郷土種を利用した植栽を行う。

6) 予測結果

(1) 保全すべき種の生育環境の変化

事業計画によると、工事中は、最初に濁水処理のための仮設調整池の設置、仮設水路の設置を行う。次に、順次盛土工事（一部は切土）を実施した後、道路を敷設し、公園整備、緑化、道路付帯工事等を進め、区画整理造成工事を完了する。

供用時は、計画地内に建築物等が建設されるほか、計画地面積に対して、公園・緑地が5.3%、調整池が7.4%、河川・水路が2.4%の割合で存在するようになる。上第二大場川は、計画地内においては、河道が拡幅される計画である。

計画地及びその周辺で確認された保全すべき種は、ミズワラビ、シロバナサクラタデ、コギシギシ、コイヌガラシ、タコノアシ、ヒメミソハギ、エゾミソハギ、ミズマツバ、ミゾコウジュ、キクモ、カワヂシャ、キタミソウ、タウコギ、ノニガナ、マツカサススキ、タタラカンガレイの16種であった。

ノニガナを除いて、これらの種は、人と自然の長期にわたるかかわりの中で形成されてきた、二次的自然の中の湿地的な環境に生育している。工事中においては、生育適地である水路は埋め立てられるため、これら種の生育環境は消失するものと考えられる。

また、水田、休耕田、畔などの陸域はすべて、盛土により質の異なる土砂で覆われ消失することになる。

供用時においては、現状と同様の湿地的な環境は、計画地内には殆どなくなる。

確認した種のうち、シロバナサクラタデ、タコノアシ、ヒメミソハギ、キタミソウ、マツカサススキ、タタラカンガレイの6種は、計画地内のみの確認であり、これら種の生育環境は消失し、それとともに個体も消失する。計画地内の水田環境と連続する周囲の水田にも生育している可能性はあるが、現状での分布状況は不明である。また、キタミソウについては、人為的な水位管理下の農業用水路内を生育環境としており、水路内でも分布は局所的で、生育適地は周辺地域を含めても限定されると考えられる。よって、これらの種に対しては、移植等の環境保全措置を講じることとした。

ミズワラビ、コギシギシ、コイヌガラシ、ミズマツバ、キクモ、カワヂシャ、タウコギの7種は、計画地内及びその周囲でも確認されている。計画地内に生育する個体については、生育環境は消失する。一方、計画地の周囲に生育する個体については、工事を実施する際には土砂流出防止柵の設置等、環境保全措置を講じることから、生育環境の変化は小さいものと考えられる。

このほか、エゾミソハギ、ミゾコウジュ、ノニガナは、計画地外の隣接する場所でのみ確認した。これらの種も同様、工事を実施する際には土砂流出防止柵の設置等、環境保全措置を講じることから、生育環境の変化は小さいものと考えられる。

表 10-9-13 保全すべき種の生育環境

種名	生育環境	環境の状態	確認位置	
			計画地内	計画地周辺
ミズワラビ	水田内、水田脇、休耕水田、畔	過湿～湿	●	●
シロバナサクラタデ		水中、湿	●	—
コギシギシ	水路沿い、畑	乾	●	●
コイヌガラシ	水田脇、水路内、畔	湿	●	●
タコノアシ	草地	過湿～湿	●	—
ヒメミソハギ	休耕水田、ヨシ草地	水中、過湿	●	—
エゾミソハギ	水路脇	湿		●
ミズマツバ	水田内、休耕地、水路脇	水中、過湿～湿	●	●
ミゾコウジュ	水路脇	水中、湿～乾		●
キクモ	水田内、水田脇、休耕水田、草地	水中、過湿	●	●
カワヂシャ	水路脇、水路内	水中、過湿	●	●
キタミソウ	水路内	湿	●	●
タウコギ	水田脇、休耕水田、畔、水路内	水中、過湿	●	●
ノニガナ	造成地、草地	乾		●
マツカサスキ	水田脇、草地	水中、過湿～湿	●	—
タタラカンガレイ	休耕水田	水中	●	—

●：生育を確認

種名の**太字**は、計画地内のみで確認した種。

(2) 植生の変化

計画地の現存植生としては、ムクノキエノキ群落といった林地、ウキヤガラ群落、ヒメガマーコガマ群落、ヨシ群落、オギ群落といった湿性植物群落、クズーカナムグラ群落といったツル性植物群落、セイバンモロコシ群落、セイタカアワダチソウ群落、オオアレチノギクヒメムカシヨモギ群落といった外来種が優占する群落、田畑（休耕地を含む）などの耕作地がみられる。

この他、住宅地や開放水域が分布しているが、計画地内においては、面積の約7割が田を主とする耕作地である。

本事業の実施により、計画地内は住宅ゾーンが23.5haで全体の40.1%、産業ゾーンが7.6haで全体の13.0%、商業・業務ゾーンが5.6haで全体の9.6%、開放水域が5.8haで全体の9.9%、沿道サービスゾーンが3.0haで全体の5.1%、公園・緑地が3.1haで全体の5.3%、その他道路等が10.0haで全体の17.1%となり、現況から大きく変化する。

事業の実施に伴って、新たに公園・緑地が整備されるとともに、各企業用地内は、その業種により「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」（昭和54年3月、埼玉県条例第10号）、あるいは「工場立地法」（昭和34年3月、法律第24号）に基づき、事業用地内の一部が緑化される。これら公共緑地や企業内の緑地は時間の経過とともに逸出等により草本相や低木相が進出すると考えられることから、植物の多様性に富んだ緑豊かな工業団地、流通業務施設となるものと考えられる。

(3) 緑の量の変化

緑の量の変化は表 10-9-14 に示すとおりである。現況における緑の量は 7.8ha で計画地全体の 13.2% を占める。将来は「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」、「工場立地法」に基づき、事業用地内の緑化が義務づけられており、街区ごとに緑地面積を算出・合計すると、将来における緑の量は 10.3ha 以上、計画地全体の 17.4% 以上となる計画である。

なお、「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」及び「工場立地法」に基づく緑化を要する面積の算出方法は以下のとおりとした。

◆用途地域内※【ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例】	緑化面積＝敷地面積×(1-建ぺい率)×0.5以上
◆その他の地域【ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例】	緑化面積＝敷地面積×0.25以上
◆工業地域【工場立地法】	緑化面積＝敷地面積×20%以上
◆公園・緑地	緑化面積＝敷地面積

※宅地開発については、敷地面積要件により「吉川市まちづくり整備基準条例」の緑化割合(敷地面積の5%以上)が適用されるが、現時点では宅地毎の敷地面積が不明であることから、安全側である左式で一律算定した。

このように、将来は現況に比べ 2.5ha 以上緑の量が増加し、緑の質についても、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準(在来植物による緑化推進のために)」(平成 18 年 3 月、埼玉県環境部みどり自然課)に記載される在来植物を中心に植栽されることから、自然環境と調和した地域となるものと考えられる。

表 10-9-14 緑の量の変化

計画地内の土地の状況	現況		将来	
	面積 (ha)	割合 (%)	緑地面積 (ha)	割合 (%)
ムクノキエノキ群落	0.1	0.2		
ウキヤガラ群落	0.5	0.8		
ヒメガマコガマ群落	0.3	0.5		
ヨシ群落	1.9	3.2		
オギ群落	0.2	0.3		
クズカナムグラ群落	0.2	0.3		
休耕畑雑草群落	0.04	0.1		
休耕水田雑草群落	1.4	2.4		
緑の多い住宅地	3.2	5.4		
商業・業務ゾーン			0.6	1.0
沿道サービスゾーン			0.3	0.5
産業ゾーン			1.5	2.5
住宅ゾーン			4.7	8.0
駅前広場			0.1	0.2
公園・緑地			3.1	5.2
小計	7.8	13.2	10.3	17.4
計画地全体面積	59.1	100.0	59.1	100.0

(4) 保全すべき種への影響予測結果

確認された保全すべき種に対する影響予測は、以下のとおりである。

①ミズワラビ

夏季に水田脇や休耕水田、畔など 10 か所で、秋季に稲刈り後の水田内や休耕水田など 19 か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

②シロバナサクラタデ

秋季に水路内やヨシ草地脇など 4 か所で確認された。

本種は計画地内のみの確認であり、工事により生育個体は消失する。

③コギシギシ

春季に水路沿いや畑など 7 か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

④コイヌガラシ

早春季に水田脇の水路内や畔の 39 か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑤タコノアシ

秋季にセイタカアワダチソウやヒメガマなどの草地内 1 か所で、春季にヒメガマ草地内 1 か所、ヨシ・ヒメガマ草地内 1 か所で確認された。

本種は計画地内のみの確認であり、工事により生育個体は消失する。

⑥ヒメミソハギ

秋季に休耕水田 1 か所、ヨシ草地脇 1 か所で確認された。

本種は計画地内のみの確認であり、工事中において生育環境は消失する。

⑦エゾミソハギ

春季に水路脇の路傍 1 か所で確認された。

本種は、計画地外の隣接する場所での確認であり、計画地外については生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑧ミズマツバ

夏季に休耕水田 1 か所、水田脇 1 か所で、秋季に稲刈り後の水田内 4 か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑨ミゾコウジュ

春季に水路脇など4か所で確認された。

本種は、計画地外の隣接する場所での確認であり、計画地外については生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑩キクモ

夏季に水田脇や休耕水田の4か所で、秋季に稲刈り後の水田内3か所で、春季に低茎草地内1か所、休耕水田内1か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については、工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑪カワヂシャ

早春季に水田脇の水路内5か所で、春季に水路脇の2か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については、工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑫キタミソウ

補足調査において、計画地内の農業用水路内で100個体以上確認された。また、計画地外の農業用水路においても2か所で確認された(1か所は生物調査範囲外)。

本種は、人為的な水位管理下の農業用水路内を生育環境としているが、そのような水路においても分布が局所的である。計画地内では、工事により生育環境とともに生育個体は消失する。

⑬タウコギ

夏季に水田脇や休耕水田の8か所で、秋季に浅く灌水した休耕水田内や畔、水路など8か所で、春季に水田脇の水路内1か所、休耕水田内1か所で確認された。

本種は、計画地内及びその周囲でも確認しており、計画地内に生育する個体については、工事により消失するが、計画地の周囲に生育する個体については、生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑭ノニガナ

早春季に造成地の法面1か所で、春季に平坦地の畔の低茎草地1か所で確認された。

本種は、計画地外の隣接する場所での確認であり、計画地外については生育環境の変化は小さく、地域個体群の保全の観点から、影響は小さいものと考えられる。

⑮マツカサススキ

夏季に水田脇1か所、ウキヤガラ草地内1か所で、秋季にセイタカアワダチソウやヒメガマなどの草地内1か所、ヨシ草地内1か所で確認された。

本種は計画地内でのみの確認であり、工事により生育個体は消失する。

⑯タタラカンガレイ

夏季に休耕水田2か所で確認された。

本種は計画地内でのみの確認であり、工事により生育個体は消失する。

(5) 環境保全措置による影響の低減の程度

本事業で実施する環境保全措置と、それを講ずることによる環境への負荷の低減の程度は、表 10-9-15 に示したとおりである。

環境保全措置により負荷の低減または代償されるものと考えられる。

表 10-9-15 環境保全措置による影響の低減の程度

環境保全措置の区分	環境保全措置の対象	環境保全措置の概要	事業主体	環境保全措置による影響の低減の程度
回避	—	なし	—	—
最小化	—	なし	—	—
矯正	—	なし	—	—
低減	水質の変化	・ 工事中に発生する濁水は仮設調整池で土粒子を沈降させ上澄み水を排出する。	事業者	・ 土砂の流出を防止するための各種対策を講じることから、周辺の植物個体、下流域の植物の影響は低減されるものと考えられる。
		・ 必要に応じて土砂流出防止柵の設置のほか、造成力所は速やかに転圧を行うなどして下流河川への影響を低減する。	事業者	
代償	生育環境の消失	・ 計画調整池内に、開放水面を有する湿地環境を整備し、湿性植物の生育環境を創出する。	事業者	・ 調整池には、現況の湿地環境と同質の環境が形成されることが考えられ、保全すべき植物種の代償機能を有すると考えられる。 ・ 公園・緑地及び企業敷地には、植物の新たな生育基盤が整備され、在来植物を中心に植栽されることになる。それらの成長とともに、適応する草本類は逸出などで侵入することが考えられることから、植物に対して代償機能を有するものと考えられる。 ・ 移植が必要な植物種については、適切な移植対策を実施することにより、生育地が代償されると考えられる。
		・ 計画地内のみ確認種であるシロバナサクラタゲ、タコノアシ、ヒメミソハギ、マツカサススキ、タタラカンガレイについては、工事実施前に再度確認調査を行い、確認された場合は調整池に創出する湿地環境に移植する。	事業者	
		・ キタミソウについては、その生育条件を創出維持できる代償地を計画地内で確保するとともに、地区外の適地への移植についても検討する。	事業者	
		・ 「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（在来植物による緑化推進のために）」に記載される在来植物を中心に植栽し、生育環境を創出する。	事業者	
		・ 「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」、「工場立地法」に基づく必要な緑化面積を確保する。	事業者 進出予定企業	
		・ 植栽木については、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（在来植物による緑化推進のために）」に記載される在来植物を可能な限り使用し、生育環境を創出するよう要請する。	事業者 （実施は進出予定企業）	

3. 評価

1) 評価方法

(1) 回避・低減の観点

植物への影響が事業者により、実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されているかを明らかにすることにより評価した。

(2) 基準・目標との整合の観点

埼玉県環境基本計画等により定められた、植物の保全に係る目標等と予測結果との間に整合が図られているかどうかを明らかにすることにより評価した。

表 10-9-16 植物に係る整合を図るべき基準等

項目	整合を図るべき基準等
「埼玉県環境基本計画（第4次）」 （平成24年7月、埼玉県）	【10年後の姿】 ・多くの県民が生物多様性の重要性を認識し、希少野生動植物の保護による個体数の増加や増えすぎた野生動植物の個体数管理なども進み、多種多様な動植物が生息・生育できる自然環境が保全・創造されています。
「第4次埼玉県国土利用計画」 （平成22年12月、埼玉県）	【基本方針】 ・県土の有効利用 ・人と自然が共生し、美しくゆとりある県土利用 ・安心・安全な県土利用
「埼玉県5か年計画」 （平成24年6月、埼玉県）	・みどりの再生（身近な緑の保全・創造・活用）
「埼玉県広域緑地計画」 （平成24年7月、埼玉県）	【基本的な考え方】 ・埼玉を象徴とする緑を守り育て、将来にわたって県民が緑の恩恵を享受できるように、埼玉の多彩な緑が織りなすネットワークを形成する。
「まちづくり埼玉プラン」 （平成20年3月、埼玉県）	・都市と自然・田園との共生
「第5次吉川市総合振興計画」 （平成24年3月、吉川市）	・みどり豊かなまちづくり
「吉川市都市計画マスタープラン」 （平成24年3月改訂、吉川市）	・人と自然が共生する環境に配慮したまちづくり
「吉川市緑の基本計画」 （平成13年4月改訂、吉川市）	・水と緑の軸 ・緑の拠点 ・緑豊かなまち並み ・吉川らしい田園風景 ・良好な水辺環境

2) 評価結果

(1) 回避・低減の観点

植物に関する環境保全措置は、表 10-9-17 に示すとおりである。

注目すべき種を含む計画地内の植物にとって最も影響の大きい、生育環境の消失を回避するため水田、畑、放棄水田・放棄畑等、草本類が中心の計画地の環境を、事業者が実行可能な範囲で残存できるか検討を行ったが、面整備事業である土地区画整理事業ではその性格上、回避・最小化・矯正することは困難であった。

そこで、代償措置として、計画調整池内に開放水面を有する湿地環境を創出し、事業により失われる湿性草地の代替環境として機能を持たせるほか、保全すべき植物種のうち、シロバナサクラタデ、タコノアシ、ヒメミソハギ、マツカサススキ、タタラカンガレイについては、調整池等に創出する湿地環境や計画地外の適地に移植し、生育地を確保する。生育条件の特殊なキタミソウについては、その生育環境を創出・維持できる代償地を確保するとともに、計画地外の適地への移植も検討する。また、新たに公園・緑地を整備するとともに、企業用地内は、「工場立地法」「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」に基づき、企業用地内の一部が緑化される。緑化には「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（在来植物による緑化推進のために）」に記載される在来植物の中から選定されるなど郷土種が中心となる。これら公共緑地や企業内の緑地は時間の経過とともに、逸出等により草本相、低木相が拡大するものと考えられる。

また、工事中における周辺環境への影響を低減するため、濁水の発生抑制を確実に実施する。これらの環境保全措置を講ずることにより、植物への影響は、事業の特性を踏まえ、事業者の実行可能な範囲で低減または代償されていると評価する。

表 10-9-17 植物に係る環境保全のための措置

影響要因	影響	検討の視点	環境保全措置の概要	措置の区分	実施主体
造成等の工事	水質の変化	濁水の発生抑制	・ 工事中に発生する濁水は仮設沈砂池や仮設調整池等で土粒子を沈殿させ上澄み水を排出する。	低減	事業者
			・ 必要に応じて土砂流出防止柵の設置のほか、造成箇所は速やかに転圧を行うなどして下流河川への影響を低減する。	低減	事業者
造成地の存在	生育環境の消失	生育環境の創出	・ 計画調整池内に、開放水面を有する湿地環境を整備し、湿性植物の生育環境を創出する。	代償	事業者
			・ 計画地内のみの確認種であるシロバナサクラタデ、タコノアシ、ヒメミソハギ、マツカサススキ、タタラカンガレイについては、工事実施前に再度確認調査を行い、確認された場合は調整池に創出する湿地環境に移植する。	代償	事業者
			・ キタミソウについては、計画地内での代償措置では生育環境の維持が困難であるため、その生育条件を創出維持できる代償地を計画地内で確保するとともに、地区外の適地への移植についても検討する。	代償	事業者
			・ 「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（在来植物による緑化推進のために）」に記載される在来植物を中心に植栽し、生育環境を創出する。	代償	事業者
			・ 「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」、「工場立地法」に基づく必要な緑化面積を確保する。	代償	事業者 進出予定企業
			・ 植栽木については、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（在来植物による緑化推進のために）」に記載される在来植物を可能な限り使用し、生育環境を創出するよう要請する。	代償	事業者 （実施は進出予定企業）

(2) 基準・目標との整合の観点

整合を図るべき基準等とした上位計画の目標等について「着目種等の生育環境の保全」の観点から、予測結果との整合が図れているかどうかを評価した。

事業の実施により、計画地内においては、耕作地を中心とした環境がほとんど改変され、住宅地や商業施設などに変化する。

このため、代償措置として、計画地内に湿地環境を創出し、事業により失われる湿性草地の代替環境として機能を持たせるほか、保全すべき植物種のうち、シロバナサクラタデ、タコノアシ、ヒメミソハギ、マツカサススキ、タタラカンガレイ、キタミソウについては、計画地内に創出する湿地環境や計画地外の適地に移植し、生育地を確保する。

また、公園・緑地を配置し、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準（在来植物による緑化推進のために）」に記載される在来植物を中心に植栽する。

その他、進出予定企業内敷地は、「ふるさと埼玉の緑を守り育てる条例」や「工場立地法」に基づく必要な緑化面積を確保することにより、緑豊かなゾーンが創出されるものと考えられ、濁水の発生の抑制等、間接的な影響についても対策を講じる。

これらのことから、整合を図るべき基準等との整合は図られていると評価する。